

議長（箕作麟祥君） 他ニ御發議カナケレハ原案ニ決シテ次ニ移リ  
マス

〔書記朗讀〕

第八百七十三條 養親カ禁治産者ナルトキハ其法定代理人ハ親族  
會ノ認許ヲ得テ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

養子カ禁治産者ナルトキハ實家ノ直系尊屬又ハ戶主ヨリ離縁ノ  
訴ヲ提起スルコトヲ得但養子ニ配偶者アルトキハ此限ニ在ラス

（參照）人一四二、獨一草一六一二、一六三〇、同二草一六

三三、一六五二

穂積陳重君 本條モ畧ホ既成法典ト同シコトテアリマス唯タ第二項

ニ既成法典ハ「實家ノ父母、祖父母」トアルノヲ廣ク「直系尊屬」  
ト書キマシタ之カ少シ異ツテ居リマス又々々ルコトト但書ヲ加ヘ  
マシタコトテアリマス此但書ヲ加ヘマシタコトニ付テハ一言説明

ヲ要スルト思ヒマスカ之ハ養子ニ配偶者カアリマシタ場合ニ於テ  
直系尊屬トカ或ハ戶主杯カラ離縁ノ訴ヲ提起スルト其結果カ離婚  
ニ爲ル場合カ幾ラモ實際上出テ參リマス當人ハ禁治産者テ何モ分  
ラヌ其知ラヌ間ニ離婚セラレテ仕舞ウト云フヤウナ結果カ生シテ  
來テハ往ケマセヌカラ夫故ニ但書ヲ加ヘタノテアリマス  
議長（箕作麟祥君） 之ハドウ云フモノテゴザイマセウカ養子ニ配  
偶者カアツタトキハ其配偶者カ訴ヲ起スコトニ爲ルノテアリマス  
カ

梅 謙次郎君 サウテナイ其時ニハ外ノ者カラ訴ヲ起スコトハ一切  
出來ナイ

議長（箕作麟祥君） 配偶者モ何モ言ヘヌ離レモ何モ言ヘヌノテア  
リマスカ

梅 謙次郎君 サウテアリマス

議長（箕作麟祥君）

迷惑ナコトハアリマセヌカ酷トイ目ニ遇ウ重

大ナ侮辱ニ遇ウ、所カ女房カ居ル爲メニドウモ仕様カナイト云フ  
ヤウナコトニ爲ルト迷惑千萬ナ事カアリハ致シマスマイカ

尾崎三良君 是ハドウ云フ理由テアリマスカ

梅 謙次郎君 實ハ此但書ヲ置キマシタノハ外ニモ場合カアルカモ  
知レマセヌカ今ノ所テハ多分ナイタラウト思ヒマス八百七十五條  
ニ依ルト「婿養子ノ場合ニ於テハ「離婚ヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ  
提起スルコトヲ得」トアリマスカ之ハ其反對ニ「離婚ヲ理由トシ  
テ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得」ト云フ規定カ離婚ノ方ニ出來ル  
積リテアリマス何時カモ吾々カラ説明致シマシタカ、サウスルト  
實家ノ直系尊屬又ハ戸主カラ離婚ヲ請求致シマス離婚ニ爲ル夫レ  
カ理由ト爲ツテ今度ハ配偶者カラ離婚ヲ請求スルト云フコトニナ  
ルトサウスルト詰リ亭主ノ知ラナイ間ニ離婚カ出來テ仕舞ウト云

フコトニナル夫レ位ナラハ少シ位虐待ヲ受ケテモ夫婦テ居リタイ  
ト云フヤウナ考ヘモアリマセウカラ夫レハ酷トイテアラウト云フ  
考ヘテ書キ分ケタノテアリマス純然タル婿養子テナクシテモ例ヘ  
ハ八百七十九條ノヤウナ場合「家女ト婚姻ヲ爲シタル養子ノ離婚  
ノ場合ニ於テハ家女ハ其父母及ヒ夫ノ承諾ヲ得テ其夫ノ家ニ入ル  
コトヲ得」トアリマスカラシテ左モナイ場合ハ當然離婚ト云フコ  
トノ積リテアル特ニ家女カ父母及夫ノ承諾ヲ得テ夫ノ家ニ入ラナ  
イ場合ハ則チ當然離婚ト云フ積リテアツテ或ハ離婚ノ所ニ其規定  
カ必要ト思ヒマスカサウ云フ場合カ幾ラモアリマス又八百八十條  
モ「夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタ  
ル場合ニ於テ妻カ離婚ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇  
ニ從ヒ離婚又ハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ要ス」トアリマス斯ウ  
云フ場合カ皆含マレルヤウニシヤウト思フテ廣ク「配偶者」ト書

キマシタカ成程唯タ養子ニ往ツタ其先キテ嫁ヲ貰ツタト云フヤウ  
ナ場合テアリマシタナラハ少シ不都合カモ知レヌト思ヒマス其場  
合ハせめて除クト云フヤウナコトニシタカ宜イカモ知レマセヌカ  
丸テ削ルト云フコトハ不都合ト思ヒマス夫レナラハ離婚ノ場合テ  
モ細君ニ代ツテ亭主ヲごんごん離婚シテ宜イト云フコトニ爲ラヌ  
ト平仄カ合ハヌト思ヒマス

村田 保君 養父カ刑ニ處セラレタ重罪ノ刑ニ處セラレタ、サウス  
ルト禁治産ヲ受ケル夫カ重罪ノ刑ニ處セラレテ禁治産ヲ受ケテ女  
房カアルト離縁ハ出来ヌト云フコトニ爲リマスカ

梅 謙次郎君 第一ニ夫レハ相手ノ方カラ離縁ヲ請求スルコトハ勿  
論出来マス第二ニ刑事禁治産ハ廢セラレルト云フコトテ總則ノ所  
テ削ラレマシタ夫レテ刑事禁治産ハ此法案ニハナイモノト見テ居  
リマス

尾崎三良君 之ハ配偶者アルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトカ出来  
ヌ、サウスルト配偶者カアルトキハごのヤウナ虐待ヲ受ケテモ夫  
タル養子カ禁治産者テアツタトキニハ離縁ノ訴ヲスルコトカ出来  
ヌト云フノハ今承ツタ所テハ家女テアツタトキハ不都合ト云フコ  
トテアリマシタカ夫レハ恰度八百七十九條ニアル通りテ「離縁ノ  
場合ニ於テハ家女ハ其父母及ヒ夫ノ承諾ヲ得テ其夫ノ家ニ入ルコ  
トヲ得」ト云フコトカアリマスカラ何モ差支ヘナイヤウニ思ヒマ  
スケレトモ之ヲ削ツタナラハドウテゴザイマセウカ夫レテハ大變  
不都合ナコトカアリマスカ

梅 謙次郎君 第一其八百七十九條ノ場合ニ肝腎ノ夫カ禁治産者テ  
多クノ場合ニハ承諾モ何モ出来ナイ其上ニ父母ノ方テモ許サヌカ  
モ知レヌ、サウスルト禁治産者カ知ラナイ間ニ夫婦テアツタモノ  
カ何時シカ夫婦テナイコトニ爲ルカモ知レヌ夫婦ノ所テ亭主力幾

ラ細君カラいちめラレテ居ツテモ夫ノ方カラ妻ヲ離縁スルコトハ  
認メテナイ何セナラハ夫婦ノ關係ノ如キ最モ「ヘルフンネル」自  
分サヘ宜イト思ヘハ「ソクラテス」ハ懇々自分ノ糞サヘ舐ツタ位  
テアリマスカラ夫レテ自分カ夫レテ宜シイト思ヘハ脇カラ夫レテ  
往カヌト云フコトハ往カヌ

議長（笑作麟祥君） 先刻モ申シマシタ通り女房カアツテモカ、  
、、、

穂積陳重君 之レハ少シ廣過キルト云フ疑ヒカアルヤウテアリマス  
カ之ハ前カラノ結果テ餘程困ル結果カ生シマス夫婦養子ノ場合テ  
其妻カ養父母カラ大變ニ酷トク慮メラレル妻ノ親カ離縁ノ訴ヲ提  
起スル夫レテ亭主ハ氣違ヒテアツタ、醒メテ見ルト女房ハ居ラヌ  
ト云フヤウナコトテアツテハ甚タ可笑シイ夫レナラハ離縁ト云フ  
コトニセヌテ置クト云フト夫婦カ別ノ家ニ居ルト云フノモ可笑シ

イ

議長（笑作麟祥君） 夫レハ例カ違ヒマスカ亭主カ禁治産テ女房ノ  
親カラ、、、

穂積陳重君 サウテナイ全ク言ヒ違ヒマシタ亭主ノ方カえらい目ニ  
遇ウ、サウスルト亭主ノ親カ引ツ張ツテ來テ仕舞ウ或ハ例サマニ  
女房ノ方カ禁治産者テアツタ女房ノ親カ引張ツテ來テ仕舞ウ、サ  
ウ云フヤウナ場合テアリマス其時ニ夫カ附イテ往クコトハ出來マ  
セヌ、テ離縁ノ訴ヲシテ附テ往ケハ宜シイ乍併離婚ノ訴ヲ提起サ  
レルト女房カ目カ醒メテ見ルト獨リ者ニ爲ツテ居ツタト云フヤウ  
ナ場合カ出テ來ルタラウト思ツテ餘儀ナク斯ウ云フ規定ヲ置キマ  
シタ理屈カ定マリサヘスレハ狹マクナルト云フコトハ私獨リハ一  
向反對テアリマセヌ

田部 芳君 但書削除ノ尾崎君ノ御説ニ賛成シマス

梅 謙次郎君 只今穂積君カラ言ハレタヤウナ理由テ此但書ハ無闇  
ニ廣クスルコトモ出來マセヌカラ揭ケマシタカ乍併私カ先刻申シ  
マシタ如ク唯養子ニ往ツテ妻ヲ他カラ迎ヘタト云フヤウナ場合テ  
アルト養子カ離縁ニ爲ツテモ其時ハ妻ハ養子ニ附テ其實家ニ歸ヘ  
ルノテ夫レハ構ハヌテアラウト思ヒマス其場合チ除クト云フコト  
ハ或ハ必要カモ知レヌ夫レハ容易ニ出來ルコトテアリマス「但養  
子ニ配偶者アル場合ニ於テ離縁ニ因リ離婚チ惹起スヘキ場合ニ於  
テハ此限ニ在ラス」ト云フヤウナ風ニ書キ直ホスコトモ出來マス  
即チ養子ニ往ツテカラ嫁ヲ貰ツタト云フ者テアレハ其養子カ離縁  
ニナレハ妻カ後トカラ附テ往ク唯タ乍併養子カ養女ノ婿養子其場  
合ニハ其婿養子先生ハ八百八十條テ以テ「其選擇ニ從ヒ離縁又ハ  
離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ要ス」ト云フコトテアリマスカラ其場  
合ハ矢張り出來ヌト云フコトニシテ置カヌト往カヌ詰ル所除ケル

五三ノ一〇三

所ハ養子カ男子テ其男子ニ後トカラ嫁ヲ貰ツタト云フヤウナ場合  
ニハ此但書ノ適用ハナク爲ツテモ宜シイカモ知レマセヌカ其外ノ  
場合ハ此但書カ無イト云フト離縁ノ方ハ出來ヌ禁治産者ノ方ハ訴  
ヲ起スコトカ出來ヌトシテ置キナカラ離縁ノ訴ヲ起サセル離縁ノ  
訴ヲ起サセルト間接ニ離婚ニナルト云フヤウナ事ニ爲リマスカラ  
サウ云フ不理窟ノコトハアルマイト思ヒマス餘程御考ヘテ御願ヒ  
申シタイト思ヒマス

尾崎三良君 私ハ是ハナクテモ差支ヘナイト思ヒマス成程今梅君カ  
ラ御説明モアリマシタカドウモ氣違ヒノ養子テアル詰ラヌカラ出  
テ往クヤウニシタ夫レチ一方カラ離縁ノ訴ヲ提起シテ來ル其場合  
ニハ其離縁テ理由トシテドチラカラテモ離婚ノ訴カ出來ルト云フ  
コトニシテ置テモ一向差支ヘナイト思ヒマス先ツ普通サウ云フ場  
合ニハ内ノ娘ナラハ内ニ置テ離縁チシテ仕舞ウノカ人情ト思ヒマ

ス氣違ヒテ亭主ニ娘ヲ附ケテヤルコトハナイ乍併親カ附ケテヤリ  
タイト思ヘハ差支ナイノテアリマスカラ夫レテ離縁ヲ理由トシテ  
離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ許シテ差支ヘナイト思ヒマス成程氣違  
ヒノ者カ離縁ニ爲ツタ目カ醒メテ見レハ女房カ居ラヌト云フヤウ  
ナコトハ不都合ノヤウテアリマスカ實際ハ決シテ不都合テハナイ  
夫レテ是ヲ削ツテハドウテゴザイマセウカ之ヲ削ツテ置イテモ一  
方ノごんな虐待ヲ受ケテモ女房カ居レハ仕方カナイトシテ置クヨ  
リ離縁カ本トニ爲ツテ離婚ニ爲ツタト云フコトハ理窟ニハ少々不  
都合カアツテモ實際ニハ少シモ不都合ハナイ夫レテ但書ハ削ツテ  
ハドウテアラウカ別ニ差支ヘナカラウト思ヒマス

梅 謙次郎君

氣違ヒノヤウナ場合ニハ妻ハ内ニ止メテ置テサウシ  
テ養子丈ケ敵キ出シテ宜シイト云フコトハ氣違ヒト云フコトカ離  
婚ノ原因ト認メラレルナラハ宜シイカ吾々ハ夫レテ原因トシテ出

シマシタカ多數ノ御方ハ之ヲ不徳義トカ何ントカ云フコトテ削除  
サレマシタ夫レニ此處テハ氣違ヒテ理由トシテ離婚ノ原因トシテ  
出スノハ宜シイト云フコトニスルノハ誠ニ困ル夫レナラハ此處カ  
宜シケレハ離婚ノ場合テモサウシナケレハナラヌ唯タ乍併此但書  
カ幾ラカ廣イト云フコトハ吾々モ考ヘマスカラ幾ラカ狭マクスル  
ト云フコトハ吾々ハ餘リ反對ハシマセヌ

尾崎三良君

此以前氣違ヒニ爲ツタ者ヲ女房カ附テ往カヌト云フコ  
トハ宜シクナイト云フコトテ削ツタノテアリマスカ之ハ場合カ違  
ウト思ヒマス氣違ヒニ爲ツテ居ル者ヲ實家ノ方カラ離縁ヲ求メル  
ト云フノハ其氣違ヒカ酷トイ目ニ遇ハサレル場合ニ違ヒナイ、所  
カ其離縁ハ成程間接ニ言ツタナラハ氣違ヒニナツタト云フコトカ  
言ヘルカモ知レマセヌカ之ハ何ニモ氣違ヒニナツタカラ離縁ヲ請  
求スルノテナイ其氣違ヒカ酷トイ目ニ遇ハサレルカラ離縁ヲ請求

スル今度ハ其離縁ヲ理由トシテ離婚ヲスルト云フコトハ之ハ前キ  
ノ氣違ヒヲ棄テ、逃ケルト云フコト、ハ大分違ウト思ヒマス夫レ  
テ之ハ削ツテ置テ少シモ實際差支ヘナイト思ヒマスカラ削ルコト  
ノ決ヲ採ツテ貰ツテ夫レカ若シ成立タヌケレハドウカ今一考ヲ煩  
ハシタイト思ヒマス

土方 寧君 私ハ但書削除説ニ賛成ヲ致シマス此離縁ノ場合ハ元ト  
ノ案ハ私ハ缺席シテ伺ハヌテアリマシタカ詰リ配偶者カ氣違ヒニ  
爲ツタト云フコトテハ離婚ノ原因トハ爲ラヌト云フコトニ爲ツタ  
サウテアリマスカ此養子縁組ノ場合ニ於テモ同シコトテアリサウ  
テアリマスケレトモ外ニ離縁ノ原因ノアツタ場合ニ偶々養子カ氣  
違ヒテアツタト云フ場合テアリマスカラ養子カ氣違ヒニ爲ツテ仕  
方カナイカラト云フコトテハナイ固ヨリ尾崎君ノ言ハレルヤウナ  
理由テアル外ノ原因テ離縁ヲスル場合ニ其者カ偶々氣違ヒテアツ

タ其時ニ離縁カ出來レハ離婚ト云フ境界カ伴フテ來ルト云フコト  
テ斯ウ云フコトテアリマス、サウスルト夫婦ノ間ノ人倫ト養子  
ト云フ制度ニ依ツテ一家ヲ維持スル必要ト雙方ニ爲ル、ケレトモ  
トチラカニ決セナケレハナラヌト云フコトニ爲レハドウモ私ハ日  
本ノ家族制度ト云フ關係カラ養子ト云フモノ、方カ重モイト思ヒ  
マス夫婦ト云フ關係カ重モイカ知レマセヌカ日本ノ家族制度カラ  
言ヘハ養子ト云フ方カ其方カ重モイト思ヒマス夫レテ寧口之ハ削  
除シタ方カ適當タラウト思ヒマス

梅 謙次郎君 私杯ハサウ反對スルノテハナイ自分共ノ希望ハ無論  
其通りニ爲ルコトヲ望ムノテスケレトモ筋カ通レハ宜シイカさん  
ちんかんナモノハ可成存シテ置キタクナイ只今土方君ハ養子ト云  
フモノハ家ヲ繼クヘキ者テアル夫レチ出サウト云フノハ大變ナ事  
柄テアルト云フコトテアルカ此場合ハ養子ノ方ニ落度カアツテ出

スト云フ場合テナイ土方君自ラ認メラレル如クニ養子ノ方カラ訴  
 ヘヘキ理由カアルノテ養親ノ方カ悪ルイノテアリマス其場合ニハ  
 養子カ出テ往クノハ家ノ爲メニハ宜シクナイ、ケレトモ養子カ自  
 分ノ身カ堪ラヌト云フコトテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトテアル夫レ  
 テアリマスカラ家ノ重モイト云フ方カラ言ハレタノハ少シ見當違  
 ヒテハアリマスマイカ加之ナラス夫レカ宜シイトシテモ若シ此但  
 書ヲ削ツテ離縁ニ因ツテ離婚チスルコトヲ許スナラハ矢張り離婚  
 ノ所テモ禁治産者ハ即チ法定代理人カ又ハ直系尊屬カ何カ代ツテ  
 離婚ヲ請求スルコトヲ得ルト云フコトニ爲ラヌト往マセヌ女房カ  
 亭主ヲゴヤシ付ケルノハ傍觀スルヨリ外ナイ親翁カ養子ヲゴヤシ  
 付ケルノハ傍觀シテ居ル譯ニハ往カヌ其結果トシテ最モ愛シテ居  
 ル所ノ妻君ト離レサセテモ宜イト云フコトハ餘程筋ノ通ラヌコト  
 ニ爲ル夫レテ此處ノ但書カ削ラレルナラハ離婚ノ方ノ禁治産者カ

知ラヌ間ニ外ノ人カラ離婚ノ訴ヲ起シテ夫婦ヲ離シテ仕舞ウコト  
 カ出來ルト云フコトニ御改メニナラヌト非常ナ跋ナモノカ出來ヤ  
 ウト思ヒマスカラ一言シテ置キマス

尾崎三良君

簡單ニ申シテ置キマスカ、サウモノハ理想的ニ梅サン

ノヤウニハ往カヌト思ヒマス唯タ單純ニ夫婦ノ一方カ氣違ヒニ爲  
 ツテ來タ其氣違ヒハ嫌ヤタト云フコトテ逃ケテ仕舞ウト云フコト  
 ハ甚ダ不人情テアルカラサウ云フコトハサセヌ方カ宜シイト云フ  
 コトテ極ツテ仕舞ツタカ此處ハサウテナイ養子カ氣違ヒテアルノ  
 ニ親カモウコンナ養子ハ出テ往ケト云フコトテ親カ虐待チシタト  
 云フ場合ニ本人カ正氣カアレハ離縁ノ訴チスルノテゴザイマセウ  
 カ本人ハ正氣カナイカラ實家ノ者カ代ツテシテヤルト云フノテ家  
 チ出テ仕舞ウ、サウスレハ夫レト婚姻チシタ娘ト離婚スルト云フ  
 コトハ今日殆ント普通ノ慣習テアリマス夫レハ決シテ不思議トモ



何ントモ思ヒマセヌ其養子先キテ出テ仕舞ツテ其養家ヲ出ル結果トシテ其娘ト離婚チスルト云フ場合ト單純ニ夫婦カ仲善クシテ居ツタ其亭主カ氣違ヒニ爲ツタノテ理由トシテ出テ往タト云フノトハ大變違ウ夫レテ跋ニ爲ルノハ當リ前テアル夫レテ無理ニ離婚ト合ハセヤウトスルノハ所謂約子定規トカ何ントカ云フモノニ爲ツテ甚タ人情ニ合ハナイ夫レテ之ハ理論一片ニセズニドウカ人情ニ合ウヤウニシテ貰ヒタイノテアリマス

議長（箕作麟祥君） 決テ採リマス但書削除ニ賛成ノ方ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 正半數

議長（箕作麟祥君） 半數テアリマス半數ナラハ私ハ削除説ノ方ニ賛成致シマス

梅 謙次郎君 夫レテハ離婚ノ方ヲ後トカラ改正シテ載キマセウ

議長（箕作麟祥君） 夫レテハ他ニ御發議カナケレハ但書ヲ削ツタ外ハ原案ノ儘ニ決シテ次ニ移リマス

〔書記朗讀〕

第八百七十四條 離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

（参照）八一五

穂積陳重君 之ハ離婚ノ場合ト同シコトテアリマス「離婚」ノ「婚」ノ字ヲ「縁」ノ字ニ變ヘタ丈ケノコトテアリマス

議長（箕作麟祥君） 御發議カナケレハ原案ニ決シテ次ニ移リマス 第八百七十五條 培養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ離婚ヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得但離婚ノ請求ニ附帶シテ

離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

前項ニ定メタル權利ハ當事者カ離婚アリタルコトヲ知リタル後  
六個月ヲ經過シ又ハ其權利ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

(參照) 人一四八、七年五月太政官指、十三年八月三日內務

省指、十五年十月十日同省指、二十二年六月司法省指、獨

一草一六三一、同二草一六五三

穂積陳重君 本條ハ婿養子ノ場合丈ケニ限リマスル規定テアリマシ  
テ元ト婿養子ノ性質ト申シマスルモノハ家女カアツテ其家女ニ娶  
ハシマスル爲メニ男子ヲ養子ト致シマスルモノテアリマスカラシ  
テ夫レテ其家女ト養子ト夫婦テナイ、サウ云フ協議上離婚ヲ致  
シマスル夫レテモ尙ホ其離婚ヲ致シマシタ家女ノ内ニ居ツテサウ  
シテ家女ノ實父ノ子ト爲ツテ居ルト云フコトハ婿養子ノ性質ニ反  
スルモノテアリマスカラドウシテモ婿養子ニ對シテハ特別ノ規定

カ必要ト思ヒマス夫レ故ニ既成法典モ此通りノ規定カアリマス唯  
タ既成法典ハ此場合ニ此離婚ヲ原因トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコ  
トカ出來ル又ハ離婚ヲ原因トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトカ出來  
ルトアリマシタカ此離婚ノ原因ノ方ニ離婚ノ方ヲ原因トシテ離婚ノ請  
求カ出來ルト云フコトハ向フノ方ニ加ヘル方カ其場所テアリマス  
カラ夫故ニ此處カラハ除イタノテアツテ其事柄ヲ除イタノテアリ  
マセヌ向フニ規定カ加ハル積リテアリマス夫レカラ「提起スルコ  
トヲ得」トアリマス此迄其場合ハ屢々アリマシタカ家女トハ離婚  
ヲシテモ併シ夫レハ家女ニ愆リカアルトカ其他ノ理由ニ依ツテ婿  
養子ハ婿養子トシテ養家ニ尙ホ居ルヤウナコトカアリマス夫レ故  
ニ離婚カアレハ當然離婚ト云フコトニハ致シテナイノテアリマス、  
サウシテハ却テ非常ナ不都合ナ事カ屢々生シテ參リマス養親ニ於  
キマシテモ離婚ハ許シテ其家女ハ他へ片付ケ夫レカラ其家ヲ養子

ニ繼カシメルト云フコトカ屢々アル例テアリマスルシ又是迄行政  
廳杯テモ認メテ居ル所テアリマス但書ヲ加ヘマシタ理由ハ之ハ前  
ニモ述ヘマシタ通離婚ヲ理由トスルト離婚ト云フコトカアツテ夫  
レカラ其後ニ離縁ノ訴ヲ提起シナケレハナラヌト云フコトニナリ  
マスカラ同時ニ請求スルコトカ出來ルト云フ丈ケテ此處ニ加ヘタ  
丈ケノコトテアリマス第二項ハ之ハ多クハアリマセヌコトテアリ  
マス、時トシテハ此離婚ニ爲ツタト云フコトヲ當事者ノ一方カ知  
ラナイコトカアリ得ルコトテアリマス夫故ニ第二項ヲ附ケ加ヘマ  
シタノテアリマス

田部 芳君 此箇條ノ第二項ニハ離婚ノアツタコトヲ知ツテカラ六  
个月ト云フコトニ爲ツテ居ルノテ知ラナイト何時マテ立ツテモ宜  
シイト云フヤウナ趣意ノヤウニ見ヘマスカサウ云フ趣意テアリマ  
スカ

穂積陳重君 知ラナケレハ勿論宜シイ積リテアリマスドウモ培養子  
カ噓ヘハ離婚カアツテ何時マテモ知ラヌト云フヤウナコトハ滅次  
ニハ起ツテ來マスマイ遠方ニ居ツタトカ云フヤウナ場合テゴザイ  
マセウカ長イ間知ラナイ三年モ知ラナイサウスルト云フト矢張り  
培養子ハ嫌ヤテモ何ンテモ其家ニ居ラナケレハナラヌト云フコト  
ニスルノハ第一項ノ規定ノ理由ヲ貫カヌヤウニ爲リマスカラ夫故  
ニ知ツタ場合丈ケニ期限ヲ附ケタノテアリマス

尾崎三良君 之ハ何ンテスカ離縁ヲ理由トシテ離婚ヲ訴ヘルト云フ  
コトハ何處カニ加ヘルノテアリマスカ

穂積陳重君 夫レハ離婚ノ方ニ加ヘナケレハ、夫レハ離婚ノ理由テ  
アリマス養子離縁ト云フモノカ離婚ト云フモノニ爲ルノテアリマ  
スカラ離婚ノ方ニ付テ加ヘル積リテアリマス

尾崎三良君 夫レナラハ宜シウゴザイマス

議長（箕作麟祥君） 別ニ御發議カナケレハ原案ニ決シテ次ニ移リ  
マス

〔書記朗讀〕

第八百七十六條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ之ニ對シテ離縁ノ訴  
ヲ提起スルコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス  
（參照）人一四五、七年五月太政官指、同年九月太政官指、  
九年六月十九日內務省指、同年同月二十日同省指、十年十  
二月二十五日同省指、十一年三月十五日同省指、同年七月  
五日同省指、十四年八月十五日同省指、十五年四月十三日  
同省指、同年五月三十日同省指、十六年六月二十五日同省  
指、十七年一月十六日同省指、二十二年四月十六日司法省  
指、同年同月二十五日同省指、二十三年一月二十四日同省  
指、同年七月十一日同省指、同年十月二十一日內務司法兩

省指

穂積陳重君 之ハ本文ハ既成法典通りテアリマス併シ既成法典カ必  
スシモ日本ノ是迄ノ仕來リニ據ツテ居ルト言フコトハ出來ナイノ  
テアリマス戸主ト爲リマシテモ隨分重モイ理由杯カアリマシテ親  
族共カラシテ之ヲ離縁スルト云フコトモアリマス乍併戸主タル者  
モウ一家ノ主人ト爲リマシタ以上ハ其家ヲ重モンシ其戸主タル位  
置ヲ重ンスル所カラシテ濫リニ外ノ者カラ之ヲ離縁スルト云フヤ  
ウナコトノ出來ルノハドウモ不都合テアラウト思ヒマス、併シ戸  
主ト爲ツテ居ツテモ非常ナ何カ過チカアルト云フト隱居ヲサセル  
ト云フコトニ爲リマセウ、サウ云フヤナ風ノ場合ニハ向フノ方テ  
隨分戸主タル資格ヲ失ハセルト云フコトモ出來ルノテアリマス何  
時マテモ脇カラヤツテ來タ者テアルカラ一旦一家ノ且那樣ト爲ツ  
タ者テモ親類ヤ何カカ寄ツテたかつて逐ヒ出ストカ或ハ其隱居カ

其戸主ヲ妄リニ離縁等ヲ請求スルトカ戸主ヲ廢スルトカ云フヤウ  
ナ事カ、サウ云フヤウナ風ノコトカアルノハ如何ニモ不都合ト思  
ヒマス夫レテ之ハ既成法典ノ採ツタ主義カ一般ニハ行ハレテ居ル  
ヤウテアリマス又戸主ト云フ位置カラ見テモ此方カ至當ト思ツテ  
此規定ヲ置イタノテアリマス

土方 寧君 一寸伺ヒマスカ但書ノ意味ハ戸主カ大變不都合カアル  
トキニハ父母ノ發議ニ依ツテ親族會ノ決議ヲ以テ隱居ヲ命スルコ  
トカ出來ルノテアリマスカ其手續ヲ經テ一旦隱居ヲシテ仕舞ヘハ  
今度離縁ト云フコトモ出來マスカ

穂積陳重君 夫レハサウテス家族ト爲ツタラ既成法典ハ甚ダ曖昧テ  
アリマス既成法典ハ「離縁ハ養子ノ家督相續後之ヲ爲スコトヲ得  
ス」トアリマスルト隱居ト爲ツテ後モ離縁ト云フコトカ出來ナイ  
ヤウニ見ヘルノテアリマス、サウ云フ意味ニ讀ム方カ本當テアラ

ウト思ヒマス家督相續後テアレハ隱居ヲシテモ先ツ往ケナイト云  
フヤウニ讀ム方カ本統ト思ヒマス其感カ少シ違ツテ居リマス

穂積八束君 意味テアリマスカ多分斯ウ云フ意味テアラウト思ヒマ  
スカ慥カメテ置キマス「養子カ戸主ト爲リタル後ハ之ニ對シテ離  
縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス」トアリマスカラシテ養子ニ對シテ  
ハ離縁カ出來ナイノテアリマスカ一寸之ヲ見ルト戸主ト爲ツテ居  
ル養子ノ方カラハ普通ノ原因カアルト離縁ノ訴カ出來ルヤウニ見  
ヘマスカ夫レハ矢張り外ノ關係カラ出來ナイコトニ爲ルノテア  
ラウト思ヒマスカ出來ルノテアリマスカ

穂積陳重君 之ハ戸主タル位置ニ立テ居ルカ爲メニ斯ウ云フ事ニ爲  
ツテ居ツテ戸主カラ請求スルト云フコトカ總則ノ方カラ家ヲ廢ス  
ルトカ色々ノ外ノ規定カラ抵觸セヌ以上ハ戸主カラハ出來ルコト  
ニナツテ居ルノテアリマス

穂積八束君 サウスルト夫レテハ矢張り文面ノ通りニ戸主タル中テ  
 モ養子カラハ離縁ノ訴カ出來ル、サウスルト云フト戸主ノ儘テ出  
 來ルト云フトドウシテモ前ノ隱居ノ所テ制限シタノト理窟カ合ハ  
 ヌテハアリマセヌカ隱居ト云フモノハ一定ノ理由カナイト出來ナ  
 イモノテアツテ、乍併戸主タル者ハ隱居ヲシタクナイカ其親翁タ  
 ル者カラ侮辱ヲ受ケタカ爲メニ離縁ヲ請求スルコトカ出來ルト云  
 フコトニ爲ルト隱居ノ方ヲ制限シタノト牴觸スルコトニナリハシ  
 マスマイカ

梅 謙次郎君 此所モ制限シテアリマス餘程ひどい理由カナイト往  
 カナイ其代リ今ノ穂積君カ言ハレタ通り總則ノ規定ト牴觸スルト  
 キハ出來マセヌ夫レモ少シ考ヘテ見ヌト分リマセヌカ夫レハ出來  
 ヌ方カ本則カモ知レマセヌカ兎ニ角少ナクトモ、サウ云フ事サヘ  
 ナケレハ出來ル積リテアリマス

田部 芳君 只今此處ニ斯ウ云フ疑問カアルサウテアリマス私カ電  
 話機ニ爲ツテ居ルヤウテアリマスカ七百六十八條ノ廢戸主ノ所テ  
 「其家ニ在ル實父母ノ發議ニ基キタル親族會ノ請求ニ因リ戸主ノ  
 隱居ヲ命スルコトヲ得」トアリマスカ此處ノ場合ニ養子ヲ離縁シ  
 ヤウト云フトキニドウ云フモノテゴザイマセウカ廢戸主ヲ矢張り  
 ヤラナケレハナラヌト云フコトテアリマスカ

梅 謙次郎君 其場合ノ規定ハ矢張りアル二項カ何カニ  
 田部 芳君 實父母ナラハ噓ヘハ養子カ離縁ニナルコトハ望マヌカ  
 ラ無論ヤラヌニ違ヒナイ養家ノ父母カ戸主ニ對シテ廢戸主ヲ請求  
 シナイト行ヘヌコトニ爲リハシマセヌカ

梅 謙次郎君 夫レハちやんとアリマス此七百六十八條ノ一項ハ實  
 父母トアリマス二項三項ノ「父母」ト云フノハ無論實父母テ其家  
 ニ在ル實父母ト云フコトハ畧シテアルト云フコトヲ當時説明致シ

マシタ其實父母ノ無イトキニハ親族會ノ請求ニ因ツテヤルノテアリマス

田部 芳君 實家ニ在ツテ養家ニ、、、

梅 謙次郎君 「其家ニ在ル實父母」

土方 寧君 「其家ニ在ル實父母」ト云フノハ實ニ可笑シイ養子ノ場合ニ付テハアリヤウカナイ

田部 芳君 向フニ缺點カアル

梅 謙次郎君 若シ之テ決シタナラハ吾々ノ主義ニハ大分近クナツテ居ルカラ宜シイカ決議ノ精神ニハ少シ、、、

穂積陳重君 若シ何ナラ七百六十八條ノ方チ、、、

梅 謙次郎君 之ハ私ハ今此處ニ初メノ何ハアリマセヌカラ斷言ハシマセヌカ私ノ記憶テハ斯ウ爲ツテ居ツタト思ヒマス「其家ニ在ル實父母ノ請求ニ因リ」ト云フコトニ爲ツテ居ツテ夫レカラ「其

家ニ實父母ノナカツタトキハ親族會ノ請求ニ因リ」云々

穂積陳重君 「實父母ノ發議ニ基キタル親族會ノ請求ニ因リ」云々  
一番初メハ「其父母」トアツタノカ夫レカラ「實父母」ト爲ツタ

土方 寧君 養子ノトキノコトハ考ヘテ居ラナカツタ

富井政章君 サウテナイ「養」ノ字ヲ入レルト云フコトテ申シマシ  
タカ用ヒラレヌテアツタ

梅 謙次郎君 之ハ私ノ發議シタノニ少々修正ヲ加ヘラレタノテアリマスカ私ハ斯ウ云フ趣意テアツタカト思ヒマス其家ニ實父母カアルトキニハ其實父母カ發議ヲセヌト親族杯カラノ發議ハ許サヌ、ケレトモ其家ニ實父母カナイトキニハ親族會ノ請求ニ因ツテ裁判所テ命スルト云フ趣意テ夫レテ二項三項ニ「父母ノ一方カ知レサルトキ」トカ又「父母共ニ知レサルトキハ父母ノ發議ニ依ルコトヲ要セス」トカ云フコトニナツタノカ養子ノ場合ニハ初メカラ實父

母ハナイトキテアリマスカラ之ハ文章ノ都合テ除ケタノテゴザイ  
マセウ

穂積陳重君 富井サンカ大變主張サレタノテアリマス

梅 謙次郎君 富井君ノハ「實」ノ字ヲ取ツテ、

富井政章君 之ハ餘程疎漏ナコトテアリマシタガ此八百七十六條ヲ  
吾々ノ間テ議スルトキハ是テ無論七百六十八條ノ場合モ云クコ  
ト、思ヒ~~マ~~詰メテ居ツテ少シモ氣力付カナシタノテアリマス慥カ  
七百六十八條ハ見テナカツタ位テアリマス、所カ今御注意ニ依ツ  
テ見ルト少シ不都合テアリマス此七百六十八條ノ規定ハ出シタト  
キニ述ヘタ通り養子ノ場合ニ適用力起ラナカツタ、サウシテ長谷  
川君ト私ト疑ヒカアツテ度々修正案カ出マシタカ仕舞ヒマテ養子  
ノ場合チ含ンテ夫レカ骨テアリマシタ其場合カ重モノ目的テアリ  
マシタ其趣意チ仕舞ヒマテ主張シマシタ、ケレトモ希望通りニ往

カナシタノテアリマス、成程今七百六十八條ト合ハセテ見ルト少  
シ合ヒマセヌ

議長（笑作麟祥君） 之ハ斯ウ云フ論テハナカツタノテハアリマセ  
ヌカ實父母ナラハソソナ事チシナイカ養父母タト云フト養子チ憎  
ムト云フ所カラ矢鱈ニ押込隠居ニスルトカ云フヤウナ事カアルカ  
モ知レヌト云フ論モアツタト思ヒマス、サウスルト此但書チ入レ  
ルト却テ反對ニ爲リハシマスマイカ

梅 謙次郎君 之ハ他ノ原因テ隠居チシタトキニ爲リマス

議長（笑作麟祥君） 外~~ニ~~ノ原因テ隠居チシタ云フトキニ後トテ訴  
チスルト云フコトテアレハ宜シイカ専ラ押込隠居ノヤウナコトチ  
言ハレルカラ前ノ決議ト反對シハシナイカト思ヒマス

富井政章君 夫レナラハ私ハ大變ニ趣意カ違ウ邊反對ノ方カラ養父  
母テアルト酷トイコトチスルト云フコトテ夫レテ争ツテ居リマシ



タ私ノ方テハ養子ヲドウモ廢セネハナラヌト云フ理由テ私ハ何處マテモ争ツテモ居リマシタ

議長（箕作麟祥君） あなたカ畢生ノ力ヲ出シテ遂ニ御負ケニナツタカ其御負ケニ爲ツタ原因カ矢張り此但書ニ爲リハシナイカト云フノテアリマス

土方 寧君 此八百七十六條ノ但書ノ關係ノ所カラ前ノ七百六十八條ノ關係ニ跨ツテ今御話シニ爲ツテ居リマスカ七百六十八條ノトキハ富井君ノ發議ニ私モ贊成シタカ詰リ「實父母」トスルト云フコトハ養子ヲ逐ヒ出サウト云フコトテ、私杯ハ一方ハ家ヲ重ニスルト云フコトテアレハ廢戸主トシテ、ナケレハ家ヲ動カセヌト云フコトテ色々論カアリマシタカ之ハ迷ニ「實父母」ト爲リマシタカ夫レテ私共ノ言フ又富井君ノ言ハレル所ノ最モ重モナモノハ通ラヌテアツタノテアリマス、所カ此條ヲ見ナイテ私ラノ初メ

言ツタノト同シヤウナ心持テ起草委員カ此八百七十六條ヲ御書キニ爲ツタト云フコトテアレハ再考ノ値打カアルト思ヒマス夫レテ此八百七十六條ヲ現在ノ儘ニシテ此但書ト調和スルヤウニ七百六十八條ノ方ヲ考ヘテ貰ヒタイト思ヒマス

穂積陳重君 之ハ前ノチ誤リマシタノハ甚タ不都合テアリマスカ併シ斯ウ云フ積リテアツタノテアリマス、あそこハ丸テ負ケテ仕舞ツタ乍併不都合千萬タケレトモ無理カ通ツテ仕舞ツタノト思ツテ廢戸主ト云フモノハ自由ニ廢メタモノト云フ考カアツテ漸ク「實父母」ト云フ丈ケニ狭ハメタノテアリマス自分ノ負ケタト云フ一心カラ忘レテ仕舞ツタト云フヤウナ鹽梅テ夫レテ私ハ現在ノ儘テモ矢張り適用カ幾ラモアルト思ヒマスカラ起草委員皆カ前ノ方ヲ復タ振り返ヘスト云フコトヲ御斷ハリチシテ置キマス

議長（箕作麟祥君） 夫レテスカラ此但書ノ「隱居ヲ爲シタル後」

ト云フノハドウシテモ實父母テナケレハナラヌ養父母ハ押込隠居  
ハ出來マセヌカラ此隠居ト云フモノハ他ノ原因テ隠居チシタモノ  
テアルト云フ理由テアルナラハ宜シイカ夫レテ振り返ヘサウトス  
ルナラハ、、、

穂積陳重君 夫レテアリマスカラ説明ノ方チ誤リマシタ

田部 芳君 只今ノヤウナノカ原案ノ趣意ナラハ此以前ノ隠居ノ所  
ヲ修正スルト云フ條件テ以テ本條ハ此儘可決スルコトヲ望ミマ

ス

梅 謙次郎君 修正ト云フノハ削ルト云フノテゴザイマセウ

土方 寧君 「實父母」ト云フコトト合ハヌカラ

穂積八束君 合ハヌコトハナイト思ヒマス

富井政章君 モウ一遍同シコトヲ申スヤウテアリマスケレトモあそ

こハ狭イケレトモ極ツタノテアリマス其時ニあの範圍チアレハあ

の條ハモウ私ハ無クテモ宜シイ一番欲シイト思フ所ノ權利ヲ持タ  
セタイト云フモノカ持タセヌヤウニ爲ツタノテスカラあの條ハ丸  
テ抜ケ殻ノヤウニ爲ツタ其時ノ考ハ養子ノ處テドウカ始末カ付ク  
カモ知レヌト云フ希望カアツタ、所カ此處テ斯ウ云フ風ニ漢ト書  
イテアルカラ是テ宜シイト云フばんやりシタ考ヘテ持ツテ居リマ  
シタ知ラヌタケ罪ハ輕イ夫レテアリマスカラ實質カ斯ウ狭イ此位  
ノ處ニスルナラハ夫レハ私ハ何處マテモ困ル、困ルケレトモ依然  
トシテ遂ニ養子ノ所テ始末カ付カナヌタト云フコトニ爲リマシタ  
七百六十八條ハ些ツトモ難有ナイ私ニ取ツテハナクテモ宜シイ

梅 謙次郎君 兎ニ角八百七十六條ハ此儘テ宜シイ

穂積八束君 私ハ逆モ贊成者ハアリマスマイカ私共ノ趣意ハ少シ機

械のカモ知レマセヌカ戸主ト爲ツタ者ハ離縁ト云フモノハナイト  
云フ位ニシタイノテアリマス夫レテ先刻モ質問チシタガ、サウ云

フヤウナ趣意テ全體私ハ解シテ居リマシタ戸主ト爲ツタラハ是ニ對シテ訴ヲ起スコトモ出來又又戸主モ離縁ヲ請求スルコトハ出來又戸主權ト云フモノカアルカラ夫レタケノ重ミカアルト云フノテ私ハ之ニ贊成ヲスルカ若シ私ノ趣意カ通レハ戸主ニハ離縁ノ訴ト云フモノハ雙方カラ出來ナイト云フコトニシタイト云フ考ヘテアリマス

梅 謙次郎君 親翁ニ毎日頭マテゴやし付ケラレテモ仕方カナイトスルノテアリマスカ

穂積八束君 ドウモ仕方カナイ若シ夫レカイケナイト云フコトテアレハ何セ隱居ヲシナケレハ養子ノ方ハ始終親父ノ頭ヲなぐつテ居ツタリ何カシテ居ルノニなぜ夫レテ離縁スルコトカ出來ナイノテスカ矢張り同シ意味テハアリマセヌカ詰リ夫レナラハ何時テモ離縁シテ宜シイテハアリマセヌカ

穂積陳重君 其趣意ハ私モ極贊成テアリマスカ是迄議決サレタ、自分ノ考ヘタケ通スト云フ譯ニハ往ケマセヌ前後揃ハヌト往ケマセヌ戸主ト云フモノチ是迄大變重ンジテ來タモノテアリマスカラ夫レテ斯ウ云フコトヲ定メテ即チ戸主カ重モイカ親子ノ關係カ重モイカト云フ斯ウ云フ問題テ元トカラサウ云フ自然ノ關係ヨリ家ノ關係ヲ重ンスルト云フ方カラ是迄テ來タコトテアリマスカラ從ツテごんごん離縁カ出來ルト云フコトテアルト大變私ハ自分ノ精神ニハ適ウカ夫レテハ外ノ所ト合ウマイト考ヘタカラ斯ウ云フコトニシタノテアリマス

議長（笑作麟祥君） 先刻田部君カラ條件附ト云フ御議論カアリマシタカ

田部 芳君 前ノ方ニ養子ノ場合モ最も適用カアルヤウニシタイト云フ條件テ

議長（笑作麟祥君） 實父母計リテナイ養父母モ戸主ヲ押込隠居ト

スルト云フ權利カアルヤウニシタイト云フ御意見テアリマスカ

田部 芳君 サウテス、サウ云フ條件附ニシタイトテアリマス

尾崎三良君 あれヲ改正スルト云フコトナラハ三項ハ削ツテ仕舞ヒ

タイト思ヒマス

議長（笑作麟祥君） 田部君ニ申シマスカ此處丈ケ削ツテ、サウシ

テ後トテ、、、

梅 謙次郎君 夫レテハ田部君ハ向フカ今ノ儘テアツタナラハ此條

ハ此儘テハ往カヌト云フ御意見テアリマスカ

田部 芳君 サウテス

梅 謙次郎君 ドウ云フ所カ往カヌノテスカ

田部 芳君 私ハ養子ノトキ杯ニ最モ此廢戸主杯ヲスルト云フ考ヘ

カ前カラアリマシタ夫レテアリマスカラ押込隠居ヲシテ、サウシ

テ、サウシテ養子ヲ離縁スルコトカラウト思ヒマス

議長（笑作麟祥君） 夫レナラハ此原案ノ儘テモ宜シイヤウテアル

田部 芳君 ケレトモ前ノ个條カ「其家ニ在ル實父母」ト云フコト

テアリマスカラ

議長（笑作麟祥君） 其方ヲ再議ニシタラドウテゴサイマセウカ

田部 芳君 ケレトモ此處テ再議ニ附スルト云フ意思ヲ發表スルノ

テアリマス

議長（笑作麟祥君） 夫レハ唯タ夫レ丈ケノ意思ノ表示丈ケノコト

テ何モ爲ラヌ

富井政章君 私ハ迷ツテ居ルノテアリマス實質ハ大變贊成シタイカ

方法カ如何ニモ少シ不立憲的ノ方法テアリマス迷フテ居リマス夫

レテ再議ノトキニ養父母ヲ入レルトシテ夫レカ通ラヌトシタナラ

ハ却テ削除ノ方カ宜シイト思ツテ居リマス今ノ儘テアレハ丸テ抜

ケ般テ望ム所ノ骨カナイ今ノ儘ナラハ却テあの條ハ無イ方カ宜シ  
イト思フ位テアリマス

議長（箕作麟祥君） 夫レテハ夫レテ宜シイテゴザイマセウ此條ニ  
付テハ別ニ異論ハナイ前ノ條テ丸テ削ルトモ修正スルトモドウト  
モ出來ルノテアリマスカラ本條ハ是テ決シテ置テ今晚ハ是テ散會  
致シマス

干時午後七時

散會

第百六十四回法典調査會議事速記録

明治二十九年二月十七日午後三時三十分開會

出席員

- |       |
|-------|
| 箕作麟祥君 |
| 本野一郎君 |
| 木下廣次君 |
| 田部芳君  |
| 穂積八束君 |
| 清浦奎吾君 |
| 穂積陳重君 |
| 富井政章君 |
| 梅謙次郎君 |
| 南部堯男君 |

横田 國臣 君

三崎 龜之助 君

奥田 義人 君

井上 正一 君

重岡 薫五郎 君

長谷川 喬 君

尾崎 三良 君

中村 元嘉 君

西 源四郎 君

岡野 敬次郎 君

議長（箕作麟祥君） ソレテハ會議ヲ開キマス

〔書記朗讀〕

第八百七十七條 當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ離縁ノ判決アリタ

ルトキハ其一方ハ他ノ一方カ自治スルコト能ハサル場合ニ於テ  
之ヲ扶養スル義務ヲ負フ

前項ニ定メタル義務ハ當事者ノ一方カ死亡シ又ハ扶養ヲ受クル  
權利ヲ有スル者カ更ニ縁組ヲ爲シタルトキハ消滅ス

（参照）八一八

穂積陳重君 本條ノ如キ規定ハ既ニ離婚ノ場合ニモ書キ入レテ置キ  
マシタ即チ八百二十九條ノ規定ト同シ精神ヲ以テ此處ニ置キマシ  
タノテゴザイマス親子ノ間ニ扶養ノ義務ノ存スルト云フコトハ勿  
論ノコトテゴザイマスカ或ハ此離縁ノ原因ヲ生シマシタ時分ニ於  
テ既ニ養親養父若クハ養母ト云フ者ハ或ハ年ヲ取ツテ居ルトカ或  
ハ其他ノ有様ニ依テ生活スルコトノ出來ナイ有様等ノアルコトハ  
屢々アルコトテアラウト思フサウシテ養親ニ於テハ其子ニ掛ルト  
云フヤウナ考ヘノアルノハ固ヨリ日本ノ今ノ有様ニ於テハ已ムヲ

得ヌコトテアリマス又養子ニ於キマシテモ小サイ時カラ他人ニ貰ハレテ其子トナツテ居リマスデマダ幼少ナ時分ニ離縁ニナリマス  
ト云フコトモ随分有リ得ル又離縁ニナツテ生活スルコトカ出来ナイコトカ其他ノ原因ヨリシテ幾ラモアルコトテアリマセウソレ故ニ夫婦ノ間ニ離婚ノ判決ノアリマシタ場合ノ如ク一旦親子トナリマシタ者テアリマスレハ其後養親子ノ關係カ止ミマシテモ生活スルコトノ出来ナイ様ナ有様ニアルトキハ之ヲ扶養スルノカ畢竟當然ノコトテアラウト思ヒマスソレ故ニ離婚ノ場合ノ規定ニ働ヒマシテ此處ニモ此箇條ヲ置イタノテアリマス

田部 芳君 扶養ヲ受クル權利ヲ持ツテ居リマス者カ更ニ縁組ヲシタトキハ扶養ノ權利カ消滅スルト云フコトカ書イテアル、所テ斯ウ云フ場合ハドウテアリマセウ縁組斗リテナイ例ヘハ婚姻スルト云フコトモアリハシナイガ——— 婚姻スレハ扶養スル義務カ

ナクナルカラ例ヘハ養女ニ往ツテ居ツタ者カ離縁ニナツテ實家ヘ歸ツテ嫁入スル或ハ養母タル者カ四十斗リノ者カ外ニ嫁ニ往カナケレハナラヌト云フ様ナ場合ニハ是レカドウナリマスカ

穂積陳重君 其事モ私ハ考ヘナイテハアリマセヌカ此自治スルコト能ハサル場合テアリマスソレカ婚姻ヲ致シテ例ヘハ養女ノ場合ニ他人ノ妻トナリマス其場合ニ他人ノ妻トナツテモ尙ホ自治スルコトカ出来ナイト云フ有様カアルモノテアラウカ或ハ乞食テモ夫婦ノアル者カアルカラ随分ナイトモ限りマセヌ又養親ノ場合ニ於テ男ノ方カ妻ヲ迎ヘルソレモ自分カ自治スルコトカ出来ナイテ妻ヲ迎ヘルト云フコトハ少ナカラウト思ヒマス且又女ノ方テアリマスレハ他人ノ妻トナリマスレハ扶養ヲ受クル者ニナルノテハアリマセヌ此婚姻ヲスルト云フコトハ此處ニ入レテ置クト云フ程ノ必要ハアルマイト云フ考ヘテ之ヲ此處ニ載セマセナンタノテアリマ

ス必ス其場合カ想像シテ見レハナイトハ思ハヌ入レル方カ善イト云フコトデアリマスレハ入レルコトニ強イテ反對テハナイ

田部 芳君 私ノ今述ヘタ趣意ヲ御賛成下サル方カアレハ決議シタイト思ヒマスカドウテゴザイマセウカ

議長(箕作麟祥君) サウスルト婚姻ノ所モ兩方サウナリマスカ田部 芳君 サウデアリマス

長谷川 喬君 私モ賛成シテ置キマス婚姻ノ場合ニ婚姻シタ以上ハモウ自活スルコトノ出來ヌ者ハアルマイカラト云フコトデアルケレトモサウ云フト矢張り縁組シタ以上ハ矢張り自活スルコトカ出來ナイト云フ者ハ少ナカラウテハナイカ其二ツノ間ニ一ハワザワザ書キ一ハワザワザ書カヌト云フコトニスル必要ハアルマイト思フソレ故ニ婚姻ノ方モ第二項ヲ削ツテ置ケハ兎モ角斯ウ云フ制限ニ注意シタ以上ハ兩方シタ方カ宜イ私ハ元來婚姻ノ方ハ全部削除

スルト云フ説ヲ出シタカソレハ通ラナカツタカラ別ノ案ヲ出シマス

梅 謙次郎君 實際ハ其方カ宜イカト思ハレマスカ既ニ此案カ出ルトキニ自分モ考ヘテ見マシタカ餘程考ヘタ上テ是テ宜イト思ヒマシタカラ其意見ヲ出サナカツタノテ其譯ハ第八百七十七條ノ精神ハドウ云フモノカ又前ノ離婚ノ所ノ八百二十九條ノ精神ハ如何ナルモノデアルカト申スト八百二十九條ノ方ハ詰ル所婚姻ト云フ者カアツテソレハ雙方ノ自由意思テ成立ツターツノ契約デアルソレニ依テ雙方カ羈束セラルヘキモノデアル然ルニ一方カ詰リ其約ヲ破ツタノデアリマス配偶者トシテ爲スヘキコトヲ爲サナカツタカラコソ離縁ニナツタノデアルカラ一方ノ過失ニ依テ離縁ニナツタノデアアル即チ間接又ハ直接ニ一方カ約束ヲ破ツタノデアアルカラ其一方カ契約カラ生スル義務ヲ盡サナカツタ爲メニ夫婦ノ關係カ絶



ヘタ夫レカ爲ノ不利益ヲ受ケテハナラヌト云フノテ立テ居ル精神  
 カ詰リ婚姻ノ效力ニ依リ一方ノ過失ニ依テ離婚シタ場合ハ他ノ者  
 ノ損害ニナラヌヤウニシテイカナケレハナラヌト云フノカ精神テ  
 アリマス又養子離縁ノ場合モ同シテ養親又ハ養子ノ一方ノ過失テ  
 離縁ニナルノハ一方カ直接又ハ間接ニ養子契約ヲ破ツタノテアル  
 カラソレヨリ生スル損害ヲ相手方カ受クヘキモノテナイト云フノ  
 カ此二箇條ノ精神テアラウト思ヒマス若シサウスルト其縁組ト云  
 フコトハ婚姻ト云フニコトチイツモ契約文ケチ眼中ニ置カナケレ  
 ハナラヌソナラハ何ゼニ此二箇條ノ第二項ノ規定カ出來タカ  
 ト言ヒマスト先ツ初メノ方テ言ヒマスレハ配偶者ト云フモノハ畢  
 竟一人シカナイモノテアル配偶者カ二人カラシテ買カレルト云フ  
 コトハアリ得ナイ一方カラ買イテ賣ウト云フナラハ專ラ其方カラ  
 買イテ賣ウカ宜イ又一方カラ買イテ賣ツテ居リナカラ又一方ニ男

ヲ拵ヘルトカ女ヲ拵ヘルトカ云フノハ不都合テアリマスカラ新ニ  
 男ヲ求メ女ヲ求メタトキハ前ノ契約ト後ノ契約トハ關係カ別ニナ  
 ルヘキモノテナリマスカラ後ノ契約ヲ結フニ依テ前ノ契約ノ利益  
 ヲ受クルト云フコトハナクナツタモノト法律ハ推定スルソレタカ  
 ラ八百二十九條第三項ニ斯ノ如キ規定カアリ本條第二項ニモ斯ノ  
 如キ規定カアルカ此婚姻ト云フ契約ト養子縁組ト云フ契約ハ相離  
 ルヘカラサルモノテナイ別々ニ成立スヘキモノテアル偶々婚姻ノ  
 契約ト養子縁組ノ契約トカ好イ都合ノ結果ヲ生スルコトハアルト  
 モソレハ偶然ノ出來事テアル婚姻ト云フコトノ出來事ノ爲メニ養  
 子縁組ノ效力ニ別ニ影響ヲ及ホサヌサウスレハ養子縁組ト婚姻ト  
 云フコトハ同時テアツテ差支ナイ以上ハ即チ婚姻ニ付テハ離婚ノ  
 後ノ配偶者ノ一方カラ扶養ヲ受ケテ居ツテサウシテ養子ヲ買ウト  
 モ又ハ餘所ニ往カウトモソレハ少シモ構ハヌコトテアル養子又ハ

元ノ養親カラ仕送りヲ貰ツテサウシテ亭主ヲ持タウト女房ヲ持タウト差支ナイソレカ爲メニ扶養ヲ受クル權利ヲ失ウコトハナイ養子縁組ノ場合ハ離縁ノ場合程強イ理由ハナイ養子縁組テアレハ婚姻ト同時ニスルコトハ出來マセヌカラ一層論理カ貫ケマス固ヨリ此八百七十七條ノ適用ノアル場合ハ即チ一方カ他ノ一方ヲ養ナツテ居ル場合テアルカラサウスレハ最早外ノ人カ養ナウニ及ハヌ新ニ貰ウナラハ前ノハ捨て後ノカラ仕送りヲ受ケルト云フコトヲ貰ヘハ宜イ就中養親ノ方カラ觀察シマスレハ養子カ養父ト云フ者養母ト云フ者ヲ二人持ツト云フコトハ出來マセヌカラ此場合ハ婚姻ノ場合ト少シモ變ハリマセヌ養子ノ場合モ過日議決ニナツタ趣意ニ依レハ原則ハ飽迄モ一人ト云フノテアリマスカラソレダケニ付テ特例ヲ設ケル必要ハナカラウ強ヒテ議論ヲ貫ク爲メニソレダケノ特例ヲ設ケルナラハマダシモテアリマスカ養親ニ付テ之ヲ廣ク

適用シ尙ホ進ンテ婚姻ノ所迄改メ様ト云フコトテアツテ見ルト少シク論理ヲ貫カヌト思ヒマスカラソレ故ニ私ハ此儘テ宜カラウト思ヒマス

田部 芳君 只今梅君カラ二ツノ契約ノ性質ノ相容レサル所カラ御説明ニナリマシタ成程サウ云フ風ノ奇妙ナ議論カラ言ヘハサウナルカモ知レマセヌカドウモ私共ハサウ考ヘテ居ラナカツタト云フノハ詰リ私ノ考ヘハ一方ノ過失テ他ノ一方ニ損害ヲ蒙ムラセテハイカヌ殆ト賠償ノ如キ性質ヲ以テ詰リ扶養ヲ與ヘサセルト云フノテ併シソレハ一人ニ限ル積リテ之ヲズツト續イテモ宜イカモ知ラヌカ法律テハ一人ノ區域丈ケニ程度ヲ止メタノテアラウト思フ詰リ一人テ離レテカラ生活ニ困ルト云フノヲ打捨て置クノハ如何ニモひごいカラ一方ノ過失アル者ニ扶養ノ義務ヲ負ハセルカ宜イ併シ一旦或ル原因テ義務カナクナツタ者ニ義務ヲ負ハセルノハ餘リ

ひゞいと法律カ見ルカラソレテ權利モナクナリ義務モナクナルト  
私共解シテ居ル若シ其理由カ至當トシマスレハ必要カナクナツタ  
ラハ其原因ノ當否如何ニ拘ハラズ其義務ヲ負フニ及ハヌ又權利ヲ  
請求スルニ及ハヌカラ必要カナクナツテモ矢張り權利ヲ受クルト  
云フ程ノ區別ヲスルニハ及ハヌト思フ

梅・謙次郎君 是ハ斯ウ云フコトニナル第一此場合ニ若シ婚姻ヲス  
レハソレテ養ナツテ貰ウ必要カナクナルト云フコトハ是テ確カメ  
ラレテ居ラヌ夫レカ爲メニ養ツテ貰ウ必要カナクナルトハ言ヘヌ  
ノミナラス夫婦テ養子ニ往クコトカ出來マセウ又養子ニ貰ウト云  
フコトカ出來マセウ其爲メニ夫婦相互ニ救フト云フ義務カ消滅ス  
ルノテナイソレト同時ニ親ニ養ツテ貰ウ子ニ養ツテ貰ウト云フ權  
利モ消滅シナイ詰リ其權利義務ハ竝ヒ存スルソレテアルカラ其婚  
姻ト云フ者カ若シヤドチラニモ過失カナクテ續イテ居ツタナラハ

夫又ハ妻ハ其配偶者ヨリ扶養シテ貰ウ權カアルシ子又ハ親カラモ  
扶養シテ貰ウ權カアル兩方併セテ持ツテ居ルソレカ一方ノ過失テ  
以テ一ツ丈ケナクナツタ離婚ノ場合モ同シ理窟テ女房ヲ持ツテ居  
ル者カ子ヲ多ク養子ヲスルサウスレハ妻カラモ養ナツテ貰ウ權利  
カアルシ子カラモ養ナツテ貰ウ權利カアル亭主テモ妻テモ養子ニ  
此方カ往ク場合テモ同シテ妻カラモ養子ナツテ貰ウ權利カアルカ  
親カラモ養ナツテ貰ウ權利カアル順位ハ扶養ノ所テ極ルサウスレ  
ハ其婚姻カ一方ノ過失テ解ケタナラハ其過失ヨリ生スル結果ヲ其  
過失ナキ所ノ配偶者カ受ケルトカ過失ナキ所ノ養親養子カ受ケル  
トカ云フコトハナイ少シモ變ハリカナイ又養子テアツタ者カ又餘  
所ニ往ク女房ヲ持ツテ居ツタ者カ又女房ヲ持ツト云フト先刻申シ  
タ理由テ變ハルト云フノテアリマス

議長（箕作麟祥君） 決テ採リマス只今田部君ノ御説ハ諸君モ御承

知ノ通り此條ト離婚ノ所ノ條ト兩方共修正シテモウ少シ廣クシロ

ト云フ修正テアリマス之ニ賛成ノ方ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

議長（箕作麟祥君） 少數、原案ニ決シテ次ニ移リマス

（書記朗讀）

第八百七十八條 養子ハ離婚ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ得タル權利ヲ害スルコトヲ得ス

（参照）澳一八五、ツユーリヒ七二九、獨二草一六五四、普

國法二部二章七一五、七一六、索一八〇〇

穂積陳重君 本條ハ離婚ノ效果ヲ規定シタモノテアリマス離婚ニ依ツテ實家ニ復籍シタ場合ニ此問題カ生スルコトカ屢々アリマスソレハ一旦其子カ他家ノ養子ニ遁入ツテ居リマシテ實家ノ子ト云フ者カ次男テ其次男カ推定相續人テ長男カ他へ養子ニ往ツテ居ツタ、

所カ其養子ニ往ツテ居ツタ間ニ推定相續人タル實子ハ死ンテ仕舞ツテ三男カ實家ノ推定相續人ニナツタ其後協議又ハ裁判判決ニ因リマシテ離婚ニナツテ其次男カ實家へ歸ツテ來タトキニ其歸ツテ來タ次男ト云フ者ハ三男ノ先ニクル者テアルカ後ニクル者テアルカ是等ニ付テハ屢々疑ヒカ生シタコトテアル之ニ付テ一定ノ慣習ト云フ者カ定マツテ居ルヤ否ヤソコハドウモ私ノ調ヘマシタ所テハ能ク分リマセヌ是迄ノ相續人ト云フ者ハ長幼ノ順序ヲ以テ定メルカ先ツ普通ノ者テアルカ併シ乍ラ相續人ヲ定メル跡式ヲ定メルト云フコトハ戸主ノ權ニアルト云フコトモアリマスソレ故ニ此場合ニ於キマシテハ實家へ歸ツテ來タトキニ如何ナル身分ヲ實家テ得ルカト云フコトハドウシテモ法律テ極メテ置カナケレハナラヌコトテアルト思ヒマス今ノ例テ申スト三男カ實家テ長男ノ位置ニナツテ居リマシテモ元其養子カ他家ニ往キマセヌケレハ其子カ矢

張リ實家テ長男ノ位置チ有シテ居ルノテアルカラ私共ノ考ヘテハ  
自然ノ有様ニ復スルト云フ方カ當リ前ト思ヒマス言葉チ換ヘテ申  
シマスレハ次男カ實家ヘ歸ツテ來テ既ニ其長男カ無クナツテ居レ  
ハソレカ矢張り長男ニナル即チ自然ノ家族關係チ回復スルト云フ  
ノカ一番種カノ規定テアルト思ヒマシテ斯ノ如ク定メマシタ併シ  
乍ラ只本文ノ如キ規定ニ止メテ置キマスト斯ウ云フ場合カ生シテ  
參リマス其間ニ自分ノ弟即チ三男ト云フ者カ既ニ長子トシテ或ル  
權利チ得テ居ル或ハ其間ニ既ニ家督相續テ戸主トナツテ居ル然ル  
ニ次男カ歸ツテ來テ其戸主チ變ヘナケレハナラヌト云フコトカ出  
來テハ不都合テアリマスソレ故ニ既ニ或ル權利チ自分カ得マシタ  
トキハ是ハ仕方カナイソレチ害セヌ以上ハ自然ノ有様ニ回復スル  
コトカ一番種カテアラウト思ヒマシテ本條ノ如ク規定致シマシタ  
議長（笑作麟祥君） サウスルト次男カ歸ツテクレハ三男カ推定家

督相續人テモ次男カ推定家督相續人ニナルト云フノテアリマスカ  
穂積陳重君 ソレハ相續法ノ極メ方次第テアリマスカ私ノ考ヘテハ推  
推定家督相續人ト云フ者ハ既得權テナクシテホンノ權利アルト云  
フ事實丈ケテアラウト思フ  
長谷川 喬君 私生子ノ認知ノ所ノ八百三十條モ矢張り第三者ノ權  
利チ妨ケテハナラヌノテハ笑アリマセヌカ  
穂積陳重君 ソレハ整理迄ニ考ヘテ置キマセウ  
議長（笑作麟祥君） ソレテハ只今ノコトハ考ヘテ置カウト云フコ  
トテアリマスカラ其他御發議カナケレハ原案ニ決シマシテ次條ニ  
移リマス

（書記朗讀）

第八百七十九條 家女ト婚姻チ爲シタル養子ノ離縁ノ場合ニ於テ  
ハ家女ハ其父母及ヒ夫ノ承諾チ得テ其夫ノ家ニ入ルコトチ得但

家女カ推定家督相續人ナルトキハ此限ニ在ラス

(参照) 七年五月司法省伺ニ對スル太政官指、八年一月十四日太政官指、同年十一月十五日内務省伺、十三年八月三日同省指、十五年十月十日同省指、二十二年五月十四日司法省指、同年同月二十八日同省指、同年六月五日同省指、同年同月十二日同省指、同年同月十四日同省指、同年同月十九日同省指、同年七月五日同省指

穂積陳重君 本條ハ是迄我邦ニ行ハレテ居リマス慣例ノ通りト心得  
マス家女ト婚姻ヲ爲シマシタ養子ノ離縁是ハ斯ウ書キマシタノハ  
婿養子ハカリテナイノテアリマスカラ一旦養子ニナツテ居ツテ其  
後家女ト婚姻スル場合モアリマスカラ婿養子モ含ミ又他ノ場合モ  
含ミマスノテ家女ト婚姻ヲ爲シタル養子ノ離縁ノ場合其場合ハ養  
子ハ離縁スルケレトモ其家女ト云フ者ハ養子ニ付テ養子ノ實家ニ

往キタイト云ツテ親連モソレヲ承知スル場合テアリマス是等ノ場  
合ニ於キマシテハ此處ニ擧ケテ置キマシタ指令等モ殆ト同シテア  
リマス其兩家共承諾ナスル承諾カアル以上ハ矢張り夫ノ實家ニ往  
ツテ宜シイト云フコトニナツテ居リマス若シ夫ノ實家へ往クコト  
カ出來ナイト云フ場合テアリマスナラハ是ハ又他ノ規定ニ依テド  
ウカ始末ヲ附ケナケレハ夫婦カ別ノ家ニ居ルト云フコトハ婚姻ノ  
方ノ規定ニ違ウノテ承諾サヘアレハ矢張り夫ノ家ニ附テ往クコト  
カ出來ル併シ乍ラ家女カ推定家督相續人テアリマシタトキハ他ノ  
規定ニ依ツテ推定家督相續人ハ廢嫡ノ上テナケレハ他ノ家ニ入ル  
コトハ出來ヌト云フコトカ相續法ニ極マリマスカラソレハ其方ニ  
讓ツテ先ツ家ノ血統ヲ續ケマス爲ノニ婿養子ヲシマシタ場合ハ家  
女ハ夫ノ家ニ入ルコトハ出來ナイト云フ但書ヲ加ヘテ置キマシタ  
田部 芳君 父母カ生キテ居ル間ニ離縁ニナラナイテ死ンテ仕舞ツ

ツテカラ暫ク經ツテ離縁ニナツタ其時ニ家女カ夫ノ家ニ入りタイ  
ト云フ希望ヲ持ツコトモアリハシナイカ若シサウ云フ場合カアリ  
トスレハ「父母又ハ夫ノ承諾」トシテ生キテ居ル間ハ父母ノ承諾  
ヲ得ナケレハナラヌトシテ死ンテ仕舞ツタ場合ハ夫ノ承諾ダケテ  
宜イト云フコトニシテハドウカ

穂積陳重君 其事ハ我々ノ間テモ考ヘテ見マシタカ斯ノ如ク書イテ  
父母ノ承諾トアツテモ父ノ亡クナル場合モアリマス母ノ亡クナル  
場合モアリマス又初ノ養子ヲシマストキカラ既ニ父母共ニ揃ツテ  
居ラヌトキモアリマスソレ故父母ノ一人カ缺ケテ居ルカ若クハ雙  
方缺ケテ居レハ自ラ其適用カナクナルカラ是レテ宜カラウト思フ  
田部君ノ御考ヘノ如ク書キマシタナラハ餘程長ク一人一人ニ付テ  
書カナケレハナラヌ前ノ方ニモ直系尊屬ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス  
トカ或ハ父母ノ承諾ヲ得サルトキハ婚姻ヲ爲スコトヲ得スト云フ

ヤウナコトカアツテモ直系尊屬カ一人モナイトキ又ハ父母カ生存  
シテ居ラヌトキハ矢張り適用ハナイカラソレト同様テ簡畧ニスル  
爲メニスウ書イタノテアリマス

田部 芳君 成程サウ云フ解釋モ善イカ知リマセヌカ若シ許サヌト  
云フナラハ善イカ許スト云フナラモウ少シ精シク書イタカ善クハ  
ナイカ

横田國臣君 此「夫ノ承諾」ト云フコトカナケレハナリマセヌカ養  
子ノ離縁ハアツタケレトモ夫婦ノ離別ハナイカラ婚姻ハ解ケヌノ  
テアラウ、、、

梅 謙次郎君 ソレハ解ケル積リテ書イテアリマス

尾崎三良君 一寸起草委員ニ質問シタウゴザイマスカ今横田君カラ  
御質問ノ點ニ付テ私モ少シ疑ツテ居リマス當然解ケルト云フコト  
ニナルノテスカ是迄議シタ所テハサウハナツテ居ラヌヤウテアリ

マス離婚ヲ請求シタカ離婚ハ請求シナイ併シ離婚カアレハ當然離婚カ解ケルト云フコトハナイト思ヒマシタカ果シテサウ云フコトテアリマセウカ

穂積陳重君 アナタハ御出席テナカツタカ知リマセヌカ既成法典ニハ離婚ヲ理由トシテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ト云フコトカ養子ノ部ニ置イテアリマスカ私共ノ考ヘテハ離婚カ原因トナツテ離婚ヲ請求スルコトカ出來ル場合ソレカラ離婚カ原因ニナリマシテ當然離婚ニナリマシタ場合ハ離婚ノ方ニ附加ヘタカ場所カ宜イノテ其事ハ跡テ離婚ノ方ニ附加ヘルト云フコトヲ説明シテ置キマシタソレテ此處ニ書キマシタ場合ハ相互カ尙ホ夫婦ノ縁ヲ切ラヌテ置イテ宜イカドウカト云フコトニ付テ何指令等モアリマスカラ此處ニ規定シタノテ婿養子ノ離婚ハ當然離婚ニナルト云フコトハ向フニ其事ヲ置ク積リテアリマス元來家女ト婚姻スルト云フコトノ條件

ヲ以テ養子ニスルノテアリマスカラ其養子ヲ出スト云フコトカ同時ニ夫婦ノ縁ヲ斷ハルト云フコトニ是迄ナツテ居リマスノテ今度モ矢張り其精神テ此處ノ處ヲ書イテ置キマシタ

尾崎三良君 サウスルトソコハマダ起草委員ノ御考ヘテ極マツテ居ラヌノテアリマスナ私ハサウ云フコトハ甚ダ理窟ハ立タヌト思フ矢張り離婚ハ離婚離婚ハ離婚テ別々ノモノテアルト思ヒマス是迄梅サン杯ノ御説明ニ依テモ假令ヒ親子ノ縁ハ切レテモ夫婦ノ縁ハ當事者カ離婚シナイ以上ハソレニ附帶シテ夫婦ノ縁カナクナルト云フノハ私共ソレハ宜シクナイト思フ理窟カラ言ツテモ人情カラ言ツテモ合ハヌト思ヒマス離婚ニナツタ以上ハ之ヲ理由トシテ離婚ノ請求カ出來ルタカラ一方カラ離婚ニナツタカラ離婚モシナケレハナラヌト言ツタラソレハ無論離婚ニナル併シナカラ離婚シタケレトモ夫婦テ居リタイト云フコトテアレハ無理ニ法律カ離シテ



仕舞ウニ及ハヌ一旦夫婦ニナツタ當事者カ私ハ一緒ニ居リタイト云フノヲ之ヲ他カラ無理ニ離シテ仕舞ウト云フノハ理窟ニモ合ハヌシ人情ニモ合ハヌト思フ故ニ私ハ離縁ヲ理由トシテ離婚ヲ請求スルコトカ出來ルカ離縁カアツタラ當然婚姻カ解ケテ仕舞ウト云フコトハ是レハ法律テ規定スヘキコトテナイト思フソレハ諸君ノ多數テドウ極ルカ知リマセヌカサウスレハ此處ノ疑ハソレカ極ラヌト解ケナイ譯テアラウト思ヒマスカ如何テアリマスカ其處ノ極ル迄ハ此八百七十九條ノ規定ハ御延ハシニナツテハドウカ或ハ其事ヲ豫シノ決ヲ御採リニナルカドウカナラヌト困ルト思フソレカラ私ハ此但書ハ削リタイト思フ今ノ穂積君ノ御話テハ離縁スレハ當然離婚ニナルカラ夫ノ家ニ入ランカラソレテ此但書ヲ置イタト云フコトテナリマスカ私ハ離縁シテモ夫婦ノ一方カラ殊更ニ離婚ト云フコトヲ請求シナケレハ婚姻ト云フモノハ解ケヌト思フテ居

ルカラシテ見ルト夫婦テナリナカラ別ノ家ニ住ンテ居ルト云フ者カ出來ルト思フカソレハ不都合テアル兎ニ角根本ノ御説ヲ此處テ御極ノニナルカ或ハ其事ノ極マル迄御延ハシニナルヤウニシタイト思ヒマス

穂積陳重君 是ハ成程離縁ト離婚トノ關係ヲ持ツテ居ルコトテナリマスカラ其主義ヲ此處テ極ノテ置クト云フコトハ御尤モノコトテナウ願ツテ置ケハ私共モ離縁ノ方ニ附加ヘルニ標準カ出來テ善イヤウテナリマスカ併シ是ハ極簡單ナ問題テ私共ノ考ヘテ居リマシタ所テハ當然解ケルト云フコトニ解シテ居ル女ノ家督相續人ニ塔養子ヲ致シマシタ場合ハ是迄テモ解ケテ居ルソレハ連レテ往クコトハ出來ヌトナツテ居ル故ニ此但書ノ場合ハ當然解ケルノテ跡ノ場合ハ之ヲ請求スルコトヲ得ルト云フノテ前ノ離縁ノ所ニモ是同シ規定カ出來テ宜カラウト思フ若シ家女カ推定家督相續人テナ

ルトキテモ養子離縁ト云フコトニ依テ離婚ニハナラヌト致シマス  
 ト是迄議定サレマシタ主義カ貫ヌカナイヤウニナリマスノテ尾崎  
 君ハ根底カラ御反對テアルカラ只今ノヤウナ議論ノ出ルノハ尤モ  
 テアリマスカ家ノ血筋ハ其處ニ存シテ置カナケレハナラヌト云フ  
 コトハ是レカ根本ニナツテ居ルノテアリマスカラ折角家ノ血筋ヲ  
 存スルカ爲メニ家女ニ婿養子ヲスル其婿養子カ離縁ニナツタ場合  
 然<sup>ハ</sup>然<sup>信</sup>婚姻カ解ケルトセヌト外ニモ其規定カ行ハレテ妻ハ夫ノ家  
 ニ入ル妻ハ夫ト同居スルト云フト其家ノ血筋カ絶ヘテ仕舞ウカラ  
 少ナクモ家女カ推定家督相續人ナルトキニ養子ニ往ツテ其養子ヲ  
 離縁シマシタトモハドウモ是迄ノ立テ方テハ私ハ諸君ノ御考ヘテ  
 聞ク迄モナク又是迄ノ慣習モサウテアリマスカラ當然離婚トナル  
 積リテアツタノテアリマス故ニ家女カ推定家督相續人テアツテ其  
 推定家督相續人ノ配偶者トシテ養子ヲ爲シタ場合ハ其離縁ノトキ

ハ當然離縁トナルソレカラ婿養子縁組ノ場合ソレニ相當致シマス  
 場合ハ離婚ヲ請求スルコトヲ得ト云フコトヲ本トシテ本條ヲ議セ  
 ラレタイト云フコトヲ請求シマス

重岡薫五郎君 一寸伺ヒマスカ本條ニ依テ見マスト家女カ夫ノ家ニ  
 入ラントスルトキハ家女ハ其父母ノ承諾ヲ得ナケレハナラヌト云  
 フコトハ明カテアリマスカ夫ノ父母若クハ戶主杯ノ承諾ヲ經スシ  
 テ入ルコトハ甚タ不都合テハナカラウカ七百四十七條ニ「戶主ハ  
 其身分及ヒ資力ニ應シテ家族ヲ扶養シ且ツ教育スル義務ヲ負フ」  
 ト云フ條カアリマス其家族ヲ扶養シ教育スル人ノ承諾ヲ經ナケレ  
 ハナ~~ラ~~ヌト云フコトハ當サニ然ルヘキ結果テアラウト思フ只夫  
 ノ承諾ノミテ足レリトシタノテアリマセウカソコヲ伺ヒタイ  
 梅 謙次郎君 是ハ私共ノ考ヘテハ必要トシナクテモ宜カラウト思  
 フ抑モ婿養子ニ入ルト云フ以上ハ女房ノ出來ルト云フコトニナル

女房カ出來ルト云フコトカアレハ從テ離縁ト云フコトハ初ノカラ見込ンテ居ルモノトシテ離縁ヲ實家ノ戸主又ハ父母等カ拒ムコトハ出來ヌト云フコトニナツテ居ルサウナル以上ハ婿養子ニ往ツタラ女房カ出來ル亭主カ歸レハ女房モ附イテクル又向フノ家女ト婚姻シタ場合テモ家女ヲ連レテ歸ツテ來タ場合ニ實家ノ戸主ハ故障ヲ言フコトハ出來ヌソレカ拒メルトナルト若シ向フテ貰ツタ女房ヲ置イテ歸ツテクルト向フテハ養子ノ嫁ハ入ラヌカラ大キニ不都合テアル故ニ實家ノ戸主ハ拒ムコトハ出來ヌソレタケノコトハ初ノカラ覺悟シナケレハナラヌト云フノテ總テ此案ハ立テ居ルノテアリマスソレカラ先刻田部君ノ御質問ニマタ答カ濟ンテ居ラヌヤウテアリマスカラ一寸申シテ置キマススカ單ニ父母ト書イテアルト父母ノ一方カ死ンタトキ又ハ父母共ニ死ンタトキハ承諾ヲ得ルコトカ出來ヌカラ夫ノ家ニ入ルコトハ出來ヌト云フコトハナイカト

云フコトテアリマシタカ私ノ考ヘテハサウテナイ若シサウナルト他ニモ澤山改メナケレハナラヌト云フ所カ幾ラモアル他ノ所テモ父母ノ死亡トアツテ他ノ一方カト云フコトヲ書カヌテ濟ンタ無論一方カ死亡シテ居レハ一方ノ承諾ハ要ラヌト云フコトテ是迄起草シテ居ル其書キ様カ悪ルイト云フコトテアレハ無論整理迄ニ改メテモ宜シイソレカラ序ニ尾崎君ノ御質問ニ付テ申シマスカ此但書ハ我々ノ方テハ一旦取ラナカツタノテ推定家督相續人テモ他ノ家ニ入ルコトカ出來ルト云フ主義ヲ取ツテ居ツタカ此前戸主家族ノ所テ議場テ非常ニ議論カアツテ推定家督相續人カ假令ヒ戸主カ承諾シテモ本人カ承諾シテモ他ノ家ニ遺入ツタリ分家シタリスルコトハ出來ヌト云フコトニ多數ノ御意見テサウナツタサウスレハ此處ノ但書ヲ削ルト云フコトハ出來ヌ況ンヤ此場合ハ穂積君ノ言ハレタヤウナ特別ノ事情カアツテ假令ヒ原則トシテサウ云フ議定カ

ナクテモ此規定ハ必要ト思ヒマスカラ此但書ヲ削ルコトハイカヌ  
ト思フソレカラモウ一ツ是ハ我々ノ間テ協議シテ居ラナカツタコ  
トテアリマスカラ先刻ノ穂積君ノ御説ト牴觸スルコトカアルカモ  
知レマセヌカ家女カ家督相續人テナイ場合此場合ニ於テハ穂積君  
ハ離婚ヲ請ハナケレハナラヌ離婚ヲ請ハナケレハ矢張り婚姻カ繼  
續シテ居ルカノヤウナ御説明テアリマシタカ八百七十九條カ此儘  
テアレハドウモサウ云フコトニナラヌト私ハ考ヘテ居ツタ其譯ハ  
「家女ハ其父母及ヒ夫ノ承諾ヲ得テ其夫ノ家ニ入ルコトヲ得」テ  
アルカラ承諾ヲ得テ即チ婚姻ヲ繼續スルコトヲ得ルノテ若シ父母  
及ヒ夫ノ承諾ナキトキハ婚姻カ當然解ケルト云フコトニナラナケ  
レハ是レカ動ケヌト思ヒマス

穂積陳重君 只今ノ梅君ノ御説明テアリマシタカ私ハ同シコトニナ  
ルト思フ是カ前ニ當然解ケヌト申シタノハ此承諾サヘアレハ續ケ

ルコトカ出來ル當然解ケルトスルト承諾シテ又ヤラナケレハナラ  
ヌソレテ承諾シナイトキニ離縁ニナル推定家督相續人ノトキニハ  
承諾スルコトモ出來ヌカラ當然解ケルト云フノテ少シモ牴觸ハシ  
ナイ積リテアリマス

長谷川 喬君 私モ重岡君ノ言ハレタコトカ尤モト思フソレニ對シ  
テハ梅君ノ御答カ甚タ満足シナイ梅君ノ言ハレル所ニ依ルト餘所  
ニヤルカラハ女房カ出來ルニ違ヒナイ女房カ出來レハ連レテ歸ラ  
ナケレハナラヌト云フコトハ豫想シテ居ナケレハナラヌト云フコ  
トテアリマシタカ既ニ議定シタ所ノ七百三十六條ノ二項ニ「婚家  
又ハ養家ヲ去リタル者カ其家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族  
ト爲サント欲スルトキ亦同シ」トアツテ亦私同シト云フノカ即チ  
其家ノ戸主ノ承諾ヲ得ルコトヲ要スト云フコトヲ受ケテ居ルソレ  
タカラ私ハ之ニ依テ支配サレルモノト思ヒマスソレカラ此八百七

十九條ハ單ニ家女トアルカ直系卑屬ト修正シナケレハナラヌト思フ若シ養子ニ往ツテソコニ嫁カアレハ子カ出來ル其子モクツ付テ歸ラナケレハナラヌト云フコトニナラウカラ直系卑屬トナラナケレハナラヌト思ヒマス

梅 謙次郎君 是ハ戸主家族ノ所テ度々案カ改マリマシタカ夫ト妻ト云フ者ハ家ヲ異ニスルコトハ出來ヌト云フコトニナリマシタ初メハサウテナカツタ初メハ寧ロ夫ハ自分ノ妻ヲ自分ノ家ニ引張ツテタルト云フ方ノ權利タケニシテ當然クツ付テ往クト云フコトテハナカツタ併シ又段々諸君ノ御説ヲ承ハルトソレテハ日本ノ慣習ニ背クタラウ違ツタ戸主ニ服従スルト云フコトニナルト色々ナ差支テ生シテ夫婦ハ住居サヘモ一緒ニシテ居ラナケレハナラヌト云フノニ一人ハ甲ノ者ノ命ヲ聞キ一人ハ乙ノ者ノ命ヲ聞クト云フコトニナツテハ不都合テアルカラ妻ハ夫ニ從ツテ當然其家ニ入ルト

云フノヲ本則ニシテワザワザ配偶者トアツタノヲ取ツタノデアアル若シソレヲ重岡君ノ言フヤウニナレハ是レカ例外ニナル長谷川君ハ何ゼ直系卑屬モ其家ニ入ルトシナイカト云フコトテアリマシタカ七百三十六條第二項ニ依テ自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族ト爲サントスルトキハ養親ノ承諾カ要ル又實家ノ戸主ノ承諾カ要ル其内一外人テモ不承知ノ者カアレハ入レルコトハ出來ヌ子ト親トハ必ス家ヲ共ニシナケレハナラヌト云フコトニナツテ居ラヌカラソレテ妻ト子トハ著ルシキ違ヒカアル愈々離縁トナル以上ハ妻ヲ連レテ歸ルト云フコトハ覺悟シナケレハナラヌカ子ヲ連レテ歸ルト云フコトハナイ

横田國臣君 私ハ尾崎君ノ説ニ贊成スル尾崎君ノ説ハ御尤モト思フ尾崎君カサウ言ハナクテモ却テ起草者カサウ云フ説テナケレハナラヌト思フ夫婦ト云フモノカ何事ナシニ直チニ離縁ニナツテ仕舞

ウ或ハ推定家督相續人テアルカラシテ婚姻ハ絶ヘテ仕舞ウト云フ  
ヤウナコトハ人情ニ本ツキ慣習ニ本ツイテ出來タノカ却テ人情チ  
害スルヤウニナルドウゾシテソレダケハ私ハ離婚ノ原因ニシタク  
ナイ若シ婿養子カ養家チ出タナラハ其時分ハ離婚チ求ムルコトカ  
出來ルト云フコトニナツテ居ツテモ宜イカソレチ當然ノコトトシ  
ナイ方カ宜カラウ況ンヤ貞女兩夫ニ見ヘスト云フコトテ死ンタ後  
ハ見ヘモ宜イカ生キテ居ル内ニ見ヘルト云フヤウナコトノ法律ハ  
設ケヌ方カ宜イ

尾崎三良君 法律チ以テ全身固メテ居ラレルト云フヤウナ貴イ法律  
博士カ斯ウ云フ不遜道理ノコトチ主張セラレルト云フノハ如何ニ  
モ我々不審ニ堪ヘヌ却テ我々カサウ云フコトチ言ツタラ大變笑ハ  
レル位ノコトテアラウト思ヒマスカ私ハ夫婦ハ神聖トカ何ントカ  
ソナナコトハ一向構ヒハシマセヌカ夫婦ニナツテ其一方カドチラ

カイヤニナツタト云フナラハ格別兩方夫婦テアリタイト云フモノ  
チ無理ニ法律カ離シテ仕舞ウト云フコトハ道理ニ叶ハナイコトテ  
恐ラク穂積博士梅博士ハ太政官ノ伺指令ト云フ者チ或ハ誤解シテ  
ゴザリハシナイカ私モ太政官ニ長ク奉職シテ居リマシテ笑作サン  
モ御承知テアリマスカサウ云フ場合ニ伺カ幾ラモ出來タ婿養子チ  
貰ツタカ放蕩無頼ノ奴テ離縁シタ其時ノ離縁ハ今日ノ如ク養子離  
縁ト離婚ト差別ハナクシテ婿ハ離縁ニナツタカ女ハ己レカ女房タ  
カラ餘所ニハヤラヌト言ヘハ三行半チ書カナケレハ女ハ餘所ヘ往  
クコトモ婿チ取ルコトモ出來ナイソコテ養家ノ親父ヤ女房カ亭主  
ニ掛合ツテ三行半チ貰ヒタイト言フ中々承知シナイ是テハ困ルト  
云フノテ伺カ出テソコテサウ云フモノハ離縁ト共ニ離婚カ當然ア  
ツタモノト見テ宜シイト云フコトニ指令シタコトカアルト思フサ  
ウ云フコトチ誤解サレタノテハナイカ娘モ夫婦ニナツテ居リタイ

ト云フノテ無理ニ引離セト云フノテ指令シタノテナイ娘モ親父モ  
 アンナ道樂息子ハイカヌト云フノテ離縁シタ場合ニ其離縁ハ離婚  
 モ籠ツテ居ルサウ云フ者ハ離婚シタモノト見ルト云フコトテ指令  
 ナシタノテアラウソレ故ニ亭主カ幾ラ女房ニシテ置キタイト思ツ  
 テモ其娘ヤ父母カアレハモウ離縁ニナツタ者テゴザルニ依テ離婚  
 ニナツタ者ト御承知下サイト言ヘハ仕方カナイ無論離婚カ出來ル  
 ノテアル、所カ梅サン方ノ御趣意ハモウ一步進ンテ假令ヒ分レタ  
 クナイト言ツテモドウシテモ分レサセルサウ云フヤウナ理窟ハ何  
 處カラ出テクルカ些ツ共分ラヌソレカラ家女カ推定家督相續人テ  
 アルトキハヤル譯ニイカヌト仰ツシヤルカ婿養子ヲ貰ツタトキハ  
 即チ其婿養子カ推定家督相續人テアラウト思フ其婿養子ヲ放逐シ  
 テ仕舞ヘハ跡ニ残ツタ娘カ又サウナリマセウ男ノ推定家督相續人  
 テサヘ家ニ合ハヌト云フトキハ放リ出シテ仕舞ウト云フコトテア

ル其娘カドウシテモ其亭主ノ所ニ往キタイ又貞婦兩夫ニ見ヘスト  
 云フ教モアルドウシテモアノ人ニ別レルコトハイヤタト云フ者チ  
 ドウモ一旦親カ承諾シテ婚姻サシタモノチ親ノ權利ト雖モ法律ノ  
 力ト雖モ之チ離シテ仕舞ウ道理ハナカラウソレテ此處ニ至ツテハ  
 假令ヒ家ハ重モカラウトモ夫婦ノ倫理迄モ絶テシナケレハナラヌ  
 ト云フコトハアリマセヌ日本ノ家ト云フ者ハ養子チシテモ出來ル  
 コトニ屬ナツテ居ルタカラ養子チスルコトハ勝手次第テアル我々  
 ノ考ヘカラ言フト其家ノ重イト云フコトハ其家ノ者カ重イト云フ  
 ノテ國家カラ見レハ其家カ重イトカドウトカ云フコトハ分ラナイ  
 コトテ一體此養子杯ト云フヤウナコトチシテ家ノ重イトカ何ント  
 カ云フヤウナコトハ是迄ノ慣習テヤツテ居ルコトタカラ強ヒテソ  
 レチ止メルニモ及ハヌカソレテ法律テ無理ヤリニヤラセルト云フ  
 コトハ今日法律ヲ制定スル上ニ於テ取ルヘキコトテナカラウドウ

ゾ私ハ離縁ノ場合ニ於テハ離縁ヲ理由トシテ離婚ハ出來ルカ當然  
離婚ニナルト云フコトハ此法律ノ上ニ於テ規定スルコトハヤノテ  
御實ヒ申シタイ其資格ハ假令ヒ婿養子テアラウカ一般ノ家女テア  
ラウカソレハ區別スルニ及ハヌト私ハ思フ

穂積陳重君 尾崎君ノ家ニ關スル御議論ハ此會ノ多數ノ御方ト根底  
カラ反對シタ御考ヘテアルト云フコトハ前カラ分ツテ居リマス其  
點ニ於テハ全然テハアリマセヌカ或ル部分ニ於テ我々三人モ大ニ  
御同意ノコトモアルノテアリマス併シ既ニ本會ニ於テハ尾崎君ノ  
如ク家ハ國ニ比スレハドウテモ宜イト云フヤウナコトハ非常ニ叱  
ラレテヤノテ居ルノテ矢張り前ノ主義ヲ貫ヌクヤウニシナケレハ  
ナラヌ一旦前カ其主義テ極マツタ以上ハ腹ノ中ハ反對テモ其議決  
ニ從ツテ案ヲ提出スルノテアリマス養子ト云フ縁カ離レレハ夫婦  
ノ縁カ離レルト云フコトハ必スシモ理論カ相伴フタモノテナイト

云フコトハ我々共モ或ル點ニ於テ同意スルカ知リマセヌカドウモ  
是迄議決サレタ所テドウシテモ推定家督相續人ハ他ヘ往クコトハ  
出來ヌト云フコトハ定マツテ居ルノテぶろてすこトシテ御議論ニ  
ナルナラハ宜イカ若シ其議論テ修正セラレルト前ノ方モ修正シナ  
ケレハナラヌソレカラ是迄ノ何等ニ付テ尾崎君杯ハ自ラ御關係ニ  
ナツタコトテゴザイマセウカラ我々ノ誤解シタ所モゴザイマセウ  
カ誤解セサル所モアルソレテ已ムテ得サル事情又ハ兩家ノ都合テ  
養子ノ離縁ノ場合ニ家女ヲ連レテ往クト云フコトハ徳川時代カラ  
アツタカドウモ婿養子カ家女ト婚姻シタ場合ニ夫婦ノ間カ離縁ニ  
依ツテ解ケスシテ夫ノ方ニクツ付テ往クト云フ方ノ習慣ハナカツ  
タ相談ヅクテ附イテ往クコトハ出來ル斯ウ云フコトカ指令ニナツ  
テ居ツタヤウテアリマスソレ故ニ本案ハ是迄ノ慣習又ハ何指令ニ  
違ツテ居ルト云フコトハナイ積リテアリマスドウカ是迄ト合ヒマ



スヤウニ致シテ御實ヒ申シタイ尾崎君ノ根本ノ御議論カ通りマス  
レハソレハ前カラ改メテ往キマスカラ宜シイカ今迄本會ノ議決テ  
改マリマシタ所テハドウモ本條ノ如キ精神テナケレハ出合ハナイ  
ト思フ

梅 謙次郎君 大體ノ趣意ハ穂積君ノ述ヘラレタ通りテモウ御疑モ  
氷解サレタコトテアラウト思ヒマスカ理窟ニ叶ハナイ叶ハナイト  
言ツテ頻リニ攻撃サレルノハ甚タ迷惑スルノテアル諸君カ理窟ニ  
叶ハヌモノヲ拵ヘテ慣習ハ斯ウタト言ツテいぢめラレテ甚ダシキ  
ニナツテハ白髪ニナツテモ親カアレハ婚姻スルニハ親ノ許可ヲ得  
ナケレハナラヌト云フコト迄極ツテ居ル或ハ自分カ戸主ニナツテ  
居ツテモ押込隠居ヲスルコトカ出來ルト云フ説モアツタ理窟ニ合  
ハヌコトハ親族編ニアルコトハ認メマスカ併シ乍ラ理窟ニ合ハヌ  
ナラハ合ハヌナリテ筋ノ通ツタモノニシナケレハナラヌノテ一旦

議決ニナツタ所ハ其議決ヲ重ンシテ其精神ヲ貫ヌクヤウニ多數ノ  
御意見ニ從ツテ案ヲ立テルノテアルソレ故ニ此箇條ハ初メノ方カ  
私ノ意見ノ如クナツタナラハ無論此條ハ反對テアル即チ第一ニ七  
百四十二條ノ「推定家督相續人ハ廢嫡ノ後ニ非サレハ他家ニ入り  
又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス」ト云フ規定カ道入りマシタカ是  
ハ我々カ書イテ出シタノテナカツタ議場テ以テ多數テ入レルト云  
フコトテ入レタ我々ノ考ヘテハ戸主カ承諾チシ本人カ承諾チスレ  
ハ假令ヒ推定家督相續人テモ他家ニ入ツテモ宜カラウ分家ニ入ツ  
テモ宜シイト云フ考ヘテアツタカ非常ニ攻撃ヲ蒙ムツテトウトウ  
斯ウ云フコトカ入レラレテ仕舞ツタ、所カ婚姻ニ付テモ我々ノ考  
ヘテモ幼年ナル者カ婚姻ヲ爲スニ付テハ親ノ承諾ヲ得テシナイト  
無法ナコトヲヤツテイケヌカラ僅ニ未成年者ダケ父母ノ承諾ヲ得  
ナケレハ婚姻カ出來ナイト云フコトニシマシタカ今度ハ生涯親ノ

許可ヲ得ナケレハナラヌト云フコトニナリマシタ親ノ權ト云フ者  
 カ段々尾崎サンノ御説ノ反對ノ方ニ規定ニナツタサウスレハ此八  
 百七十九條モ斯ウ云フヤウニ規定シナケレハ辻褄カ合ハヌト考へ  
 タ但書ハ七百四十二條ノ結果テアル又夫ノ承諾ヲ得テト云フノハ  
 即チ尾崎サンノ仰セニナルヤウニ我々ノ根本ノ考ヘカラ言フト夫  
 モ依然夫婦テ居リタイト思ヒ妻モ依然トシテ夫婦テ居リタイト思  
 フノチ離シテハ人情ニ反シ理窟ニモ合ハヌカラ其場合ハ婚姻カ解  
 ケヌモノトシテ單ニ離縁ヲ理由トシテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ト  
 云フコトニ止メタイカ併シ父母ノ承諾ト云フコトヲ是迄ノ如ク重  
 キチ置クト父母ト家女ト婚姻ヲ許シテ置イタノハ自分ノ家ニ入レ  
 テ娶ハセル爲メテアル其家女カ預所ノ家ニ遣入ツテ仕舞ウト云フ  
 コトヲ許ス積リテナカツタト云フコトヲ父母カ言フテアラウソレ  
 ハ父母ノ承諾ト云フコトニ重キチ置ク以上ハ尤モノ話テアルカラ

父母カイヤタト言ヘハ往クコトハ出来ヌサウセヌト是迄議決ニ爲  
 ツタ所ノ精神ト理窟カ合ウマイカト思フカラソレテ斯ウシタノテ  
 併シ此點杯ハ私杯ハ最モ疑ツテ居ツタノテ實ハソレ程迄ニ父母ノ  
 承諾ニ重キチ置カヌテモ宜イカト思ツタ又ソレ程ニ諸君ノ御叱リ  
 チ蒙ムリハシマイカト思ツタカ怖氣カ付イテ居ツタカラ成ル可ク  
 多數ノ御意見ニ戻ラヌヤウニスルト云フノテ是ハ寧口遠慮シテ此  
 位ニシテ置イタカ宜カラウト云フノテアリマスカラ是ハ父母ノ承  
 諾カ要ラヌト云フコトニナツテモ必ズシモ辻褄カ合ハヌコトモア  
 リマスマイカラソレ丈ケノコトナラハ贊成シテモ宜イカ但書ヲ御  
 削リニナルトソレト同時ニ七百四十二條ヲ御削除ニナラヌト辻褄  
 カ合ハヌト思フ尾崎君ハ家女カ推定家督相續人テナイ養子カ推定  
 家督相續人テ其推定家督相續人ヲ逐出ス位タカラ家女カ其家ヲ出  
 テモ構ハヌト仰ツシヤルカサウスレハ血筋カ絶ヘル養子カ離縁ニ

ナレハ即チ家女カ推定家督相續人トナル養子カ子テアレハコソ家督相續人テアリマスカ養子カ子テナイトキハ其家女シカナイサウスレハ其場合ハ家女ハ推定家督相續人テアル天然ノ子テアリマスカラドウシテモ七百四十二條ヲ御削リニナラナイト八百七十九條ノ但書ハ削ルコトハ出來ヌト思フ

横田國臣君 私ハ是迄ノ仕組カ斯ウテナカツタカラドウタコウタト云フノテハナイ或ハ只官ノ上カラ見タ慣習ハ斯ウテアツタカモ知レナイ併シ乍ラ慣習ト言ツテモ日本ノ如キハ其實實際ニ入ツテ見レハ右ニシテモ左ニシテモ宜イト云フノテドウテモナルカ私ハ今梅君カ言ハレタ通り前カ斯ウナツテ居ツタカラ此處モ斯ウナケレハナラヌト云フコトハ少シハ容赦シテモ宜イ悉クノ法律ニ例外ト云フコトノナイコトハナイ君子ハ孔ダ甚ダシキコトヲ爲サステ甚ダシキコトヲ爲シタカラト言ツテソレ迄ニ往カヌテモ宜イ諸君モ

御承知ノ通り只男ト女ト相愛シテ居ルノチ親カ無理ニ割クト云フノハ孔タ甚ダシキコトテアルカラ其位ハ例外ニシテモ宜イト思フ尾崎三良君 私ノ誤解カ知ラヌカドウモ是レテハ不都合ト思フ太政

官ノ指令テ培養子離縁ノ場合ニ離婚モ共ニシタモノト云フ指令ノアツタノハ前ニモ申ス通り是レハ一方カ離レテ仕舞ヒタイト思ツテモ一方カ聞カヌカラソレテ何カ出ルノテ雙方熟議ノ上テ其娘ヲヤルコトハ一向差支ナイコトテアルサウスレハ婿ト女房ト兩親カ熟議ノ上テアレハヤツテモ宜シイノテ何ノ出ルノハ一方カ離縁ニナツテ離サウトシタ所カ一方カ聞カヌトキニハソレテ理由トシテ離婚カ出來ルト云フノテアル、所カ今度ノ案ハ一步進ンテ離婚シナケレハナラヌゾ娘カ往キタイト思ツテモソレハナラヌゾト云フ斯ウ云フひびい法律ハナカラウ梅サンハ我々ハサウ云フ精神テナカツタカ此席テサウ云フ主義ニナツタカラ止ムヲ得ス斯ウナツタ

ト言ツテ見ルト我々ノ論カ通ラナカツタカラ毒ヲ喰ハ、皿迄斯ウ  
ヤツテ仕舞ウト云フノテ儼打ニ斯ウヤツタノテアラウカソコハ極  
慮心ニ穂積サンモ御考ヘテ願ヒタイソレテ此迄通り雙方熟議ノ上  
ナラハヤツテモ宜シイ其代リ一方カイヤタト言ヘハ放リ出サレタ  
養子カ己レノ女房タト言ツテモ離縁ヲ理由トシテ當然離婚カ出  
來ルト云フコトニ致シタイ今日之ニナルト熟議テモイカナイ親  
カ許シテモナラヌ誰カ許シテモナラヌゾト云フコトテ大變ソレハ  
ひざい私ノ兼テノ精神ハ諸君御承知ノ通りテアルカ併シナカラ自  
ラ其間ニ深淺カアル成程先達テハ戸主トナツテ居ル者カ其家ヲ廢  
シテ他家ニ往クト云フコトハ善クナイト云フ説カアツタ我々ハ甚  
タソソナコトニハ構ハヌト言ツタカソレハ負ケタ、併シ是ハ戸主  
ニナツテ居ラヌ者テアルソレニ是迄ノ習慣トシテ嫡子ト言ヘハ男  
ノ子テアルソレヲハ娘迄ニ及フトシテ夫婦同士カ中カ善クテ離レ

タクナイ親モヤツテモ善イト云フノニ法律カヤラヌト云フサウ云  
フ理窟ハ出テ來ナイ他ノコトハ兎モ角モ是レ丈ケハサウ其甚ダシ  
クナサラスニ少シ人情ニ近イコトニお極メ置キテ願ヒタイソレテ  
私ハ此但書ヲ削リタイト思ヒマス

長谷川 喬君 私ハ尾崎君ノ説ヲ贊成テス七百四十二條テ推定家督  
相續人ハ他家ニ入ルコトカ出來ナイト云フコトヲ極メタカラ其主  
義ヲ貫ヌイテ此處ニ斯ウ云フコトヲ極メナケレハナラヌト云フコ  
トテアルカ最初婚姻チスルニハ父母ノ承諾ヲ得ナケレハナラヌト  
云フコトニシタカラ此處モ父母ノ承諾ヲ必要トスルト云フコトテ  
アリマスカ私ノ考ヘテ所テハ餘リ程度カ違ウト思フ七百四十二條  
テ推定家督相續人ハ他家ニ入ルコトハ出來ヌト云フノハ養子ニ往  
クトカ或ハ分家シテ一家ヲ創立スル場合ヲ想像シテサウ云フコト  
ハナラヌト云フコトニ極マツタノテアルカ本條ノ場合ハ既ニ往ツ

テ仕舞ツタ如ク婚姻ト云フモノカ成就シテ仕舞ツタ其成就シテ仕舞ツタ婚姻契約モ矢張り解カナケレハナラヌト云フノハ少シ度カ進ミ過キテ居ルソレタカラ七百四十二條カ許サナカツタカラト言ツテ先迄サウナラヌテモ宜イト思フ婚姻ヲ爲スニ付テハソレソレノ費用ヲ費サナケレハナラヌカラ父母ノ承諾ヲ要スト云フノテアルカ既ニ婚姻カ出來テ仕舞ツタノニ父母カ勝手ニ解イテ仕舞ツテモ宜イト云フコトニ迄進ンテ居ナクテモ我々ノ希望スル精神ハ十分賈ヌイテ居ルコト、思フソレカラ尙ホ序ニ言フテ置キマスカ先ニ重岡君カ言ハレタ通り自分ノ實家へ妻ヲ連レテ戻ルトキニハ戸主カ承諾ヲシナケレハナラヌ實家へ戻ル以上ハ實家ノ戸主ノ厄介ニナルカラ戸主ノ承諾ヲ要スルト云フコトニスルカ至當ト思フ自己ノ直系卑屬ヲ家族ニスルニハ戸主ノ承諾カ要ルト云フコトト同シテアル是ハ整理迄ニ御考ヘテ願ヒタイ

穂積陳重君 尾崎君ノ但書ヲ削ルト云フコトカ此處テ若シ通りマセスナラハ是レト同時ニ推定家督相續人ハ他家ニ入ルコトヲ得スト云フ規定ハ此場合ハ此限りニ在ラスト云フコトヲ明カニ書カナケレハイカ又前ノ方カサウナツタカラソレテ讎討ニ斯ウ書イタノテハアリマセヌ慣習カ斯ウナツテ居ルト思フテ斯ウ書キマシタノテアリマスカラ若シ但書ヲ削ルト云フコトニナリマスナラハ此場合ハ此限ニアラスト云フコトニナリタイト思ヒマス立チマシタ序ニ申シマスカ尾崎君ノ指令ノ解釋ト私ノ解釋トハ詰リ裏ト表ト考ヘテ又尾崎君ハ但書ノ方ヲ裏ニシテ離縁ニナルノヲ表ト云フ表裏ノ誤解カドウシテモアルト私ハ思ヒマス若シ意味カサウテアツタナラハ丸太政官ノ指令ヲ解シ得ナカツタノテアリマス

梅 謙次郎君 先刻私カ述ヘタコトヲ長谷川君カ大ニ誤解シタカラ其點ヲ一言辯シテ置キタイ父母ノ承諾カ若シ之ニ及フト云フコト

テ多數カ善イト云フナラハ論スル必要ハナイ之ヲ書クトキニ理窟  
 ノナイコトヲ書イタヤウニ思ハレテ、甚タ迷惑スル長谷川君ハ誤解  
 シテ居ル其理窟ハ私ノ言ヒ様カ悪ルカツタカ知リマセヌカ長谷川  
 君ハ最初婚姻ナスルトキハ父母ノ承諾カ要ルカ解クニハ要ラヌト  
 云フコトテ攻撃サレマシタカソレハ大變違ツテ居ル父母ノ承諾ト  
 云フコトニ諸君ハ重キヲ置イテ居ラレヌヤウテアリマスカ父母カ  
 家女ト養子ト婚姻スルコトニ承諾ヲ與ヘタト云フノハ普通ノ婚姻  
 ト思フテ承諾ヲ與ヘタカト云フト決シテサウテナイ若ヤ其妻ヲ其  
 男ノ家ニヤルト云フコトナラハ承諾シナカツタカ知ラヌソレヲ踪  
 カラ夫サヘ承諾ヲスレハ妻ハクツ付イテ往ツテモ宜イト云フコト  
 ニシテハ其趣意ニ叶ヒマスマイ又若シ之ヲ御許シニナルト詐欺カ  
 幾ラテモ出來ル何ゼ出來ルカト云フト私カ或ル婦人ト夫婦ニナリ  
 タイ併シソコノ家ニ往クノハイヤタカ私ノ家ニ貰ハウト言ツテハ

親カ承諾ヲシナイカラ仕方ナシニ養子ニ往クサウシテ離縁ノ原因  
 ヲ拵ヘル何トナク養父ノ氣ニ入ラヌヤウナコトヲシテ協議上ノ離  
 縁ヲスルト初メノ希望通り妻ハ私ノ方ニヤツテクルサウスルト但  
 書ヲ御削リニナルト私カ明カニ八百四十二條ト牴觸スルト申ス譯  
 ハ矢張り同シヤウナ譯テ推定家督相續人タル家女カ初メカラ或ル  
 夫ヲ持チタイ併シ嫁ニ往カウトスルト七百四十二條テ出來ナイ親  
 カ承知シテヤリタイト言ツテモ出來ナイカラ仕方カナイ一旦此方  
 ノ養子ニシテソレカラ協議離婚ニナルサウシテ娘カ附イテ往クト  
 云フコトニナルト養子カ子タルノ道ヲ盡サヌト云フコトニナルソ  
 ンナ法律ヲ拵ヘルナラハ拵ヘヌ方カ宜イ其位ナラハ七百四十二條  
 ハ削ツテ貰ハナケレハ不都合ト思フ表面ハナラヌゾ併シ裏カラ出  
 來ルト云フヤウナ法律ハ出來ヌ方カ宜イカラ此但書ヲ削ルナラハ  
 前ノ七百四十二條ヲ改メテ載カヌト論理カ買カヌ決シテ復讐テモ

何ンテモナイ私ノ考ヘテハ法典ニ忠實ナル積リテ平生ノ主義ハ捨テモ此法律ヲ拵ヘタイト云フノテアリマス

尾崎三良君 今梅サンカラ段々斯ウ云フ弊カアルトカア、云フ弊カアルトカ例ヲ擧ケラレタカ此方ニ吳レヌカラ養子ニ往ツテ何カ離縁ノ原因ヲ拵ヘテ此方ヘ連レテ歸ツテクル雙方夫婦ニナリタイト云フ者カ詐欺ヲ行ナツテイカヌト云フコトテアリマシタカソレ位惚込ンタ者ナラ仕方カナイソレカラ又サウ云フ様ナ詐リテ養子ニ出テクルヤウナ人ヲ惚培養子ニ貰ツタト云フノハ餘程拔ケタノテサウ云フ見損ナヒチシタノハソレハ過チト見ルヨリ仕方カナイ善イ養子ト思ツテ貰ツタ所カ案外放蕩杯ヲシテ隨分家ヲ紊スヤウナ者カアリマスソレハ見損ナヒテアルカラ仕方カナイソレカラ雙方共謀シテ是ハ推定家督相續人テアルカラお前ノ方ヘヤル譯ニハイカヌカラ一旦養子ニ來イサウシテ後ニお前ノ方ヘヤルト云フ協議

カ整ヘハ誠ニ目出度イコトテサウ物事カ容易ニ往ケハ法律ノ厄介ニナラヌテ宜イ併シ七百四十二條ハ骨ヲ折テ極マツタト云フコトテアルカラソレマテ削ルニ及ヒマセヌカラ斯ウ云フ場合ハ取除ニシテモ差支ナイ推定家督相續人ハ大事ナ者テアルト云フ看板ヲ表面ニ掲ケタ以上ハ毒ヲ喰ハヽ皿ト云フヤウニセヌテモ斯ウ云フ者ハ取除ケテモ宜イ併シ其爲メニ但書ヲ加ヘルノ必要カアレハソレハ整理ノ時迄ニ御改メヲ願ヒタイ兎ニ角此處ハ先刻カラ申シタ精神ニ改メラレタイソレカラ私ハ但書ヲ削ル丈ケニシタイト思ヒマシタカドウモ父母ノ承諾ト云フコトカ必要ト云フコトニナルト承諾セヌトキハドウスルカト云フ議論カ出テ隨分六ケシウゴザイマスカラ是レハ矢張り横田サンノ言フヤウニサウ云フコトハ必要テナイト云フコトニシテ宜イト思フ

梅 謙次郎君 ソレカラ寧ろ全部削除カ宜イ

尾崎三良君 ソレテ戸主云々ト云フコトハ重岡君ノ御話カアリマシ  
タカ是レハ必要テアラウト思ヒマスカラドウカソレ文ケノコトヲ  
加ヘルコトニシタイ

穂積陳重君 サウスルトアナタノ御議論ハ潰レマセヌカ戸主ハ出テ  
往ク方ハ承諾カ要ラヌ又遣入ル方ハ戸主ノ承諾カ要ルト云フト鈞  
合カ合ハヌ戸主ノ承諾ヲ加ヘルト云フト父母カナイトキニハ出テ  
往クコトト遣入ルコトカ合ハナイヤウニナル戸主ノ承諾ト云フコ  
トヲ我々カ入レマセヌノハ先刻梅君カラ言ハレマシタ通り婿養子  
ニナレハ妻ヲ持ツト云フコトハ勿論初メカラ分ツテ居ル其後養子  
カ離縁ニナツテ實家へ歸ツテクル其時分ニ女房モ附イテ往クお前  
ハ宜イカ女房丈ケハイカヌト云フノハひどい女房ハ法律上始終夫  
ニ従フ者テアルカラソレヲ拒ムト云フコトハ不都合ナコトテアラ  
ウト云フノテ戸主ト云フコトヲ入レナカツタノテアリマス

議長(箕作麟祥君) 戸主ヲ入レルト云フ説ハ本當ニ成立ツテ居ラ  
ヌヤウニ思ヒマス横田サンノ御説ハ尾崎サンモ御同論ノヤウテア  
リマス又長谷川君ハ父母ノ承諾ト云フコトヲヤメテ但書ヲ削ルト  
云フコトテアリマス、、、、

梅 謙次郎君 サウスルト全部削ツテ離婚ノ方ニ入レ、ハ宜イコト  
ニナリマス

長谷川 喬君 ソレテモ宜イ

議長(箕作麟祥君) ソレテハ此條ハ丸テ削ツテ離婚カ離縁ノ原因  
ノ一ツニシヌヤウト云フノテアリマス只今ノ説ニ賛成ノ方ノ起立  
ヲ請ヒマス

起立者 少数

議長(箕作麟祥君) 少数、ソレテハ本條他ニ御發議カナケレハ原  
案ニ決シテ次ニ移リマス



## 〔書記朗讀〕

第八百八十條 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ<sup>離</sup>婚姻ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ要ス

(参照) 九年三月五日内務省指、同年八月二十一日内務省指  
 穂積陳重君 本條モ矢張り離縁ノ結果ヲ規定シタモノテアリマスカ  
 實ハ本條ノ規定ヲ斯ノ如ク此處へ出シマシ<sup>タ</sup>ノハ甚ダ苦シカツタ  
 併シ乍ラドウモ本條ノ如キ場合ニ始末カ附キマセヌソレ故ニ書キ  
 方ニモ苦シミ且ツ出スコトニハ餘程私共困リマシタカ之ヲ置キマ  
 セヌトドウナツテ宜イカ外ノ規定カラ始末カ附カヌカラ本案ヲ提  
 出シマシタ夫婦養子ノ場合ニ於テ夫ノ方カ離縁サレマシタ場合ハ  
 前條ノ規則ニ依テ妻ハ夫ノ家ニ附テ參リマスソレカラ養子カ他ノ  
 養親ノ子ト婚姻ヲシマシタ場合ニ於テモ其夫タル者ノ離縁ノ場合

ハ通則ニ依テ跡ノ始末カ能ク附キマスカ妻ノ離縁ノ場合——  
 此處ハ矢張り離縁サレタ妻ニハ離縁ノ原因カアツテ離縁サレルト  
 云フ場合ニソレカ爲メニ是ハ婿養子テモ何ンテモアリマセヌカラ  
 是ハ當然夫婦ノ縁カ切レルト云フノモ如何ニモ人情ニ違ヒマシタ  
 コトテアラウ併シ乍ラ此場合ハ一方ニ於テハ離縁ノ原因トスルコ  
 トハ勿論出來ルト致シテ置イテ宜シイ何ゼナレハ離縁ヲサレタ併  
 シ離婚カアリマセヌトキニ於テハ其妻ト云フ者ハ離縁ヲサレマシ  
 タ養家ニ矢張り居ラナケレハナラヌ夫婦ハ同居スルコトヲ要ス  
 トアルノニ離縁ヲサレタ養家ニソレカ夫ノ養家テアルカラ續イテ  
 居ルト云フコトハ如何ニモ苦シイコトテ又實際サウ云フコトカ行  
 ハレルトモ思ヒマセヌソレナラハ其時ハ必ス離縁ト云フコトニス  
 ルカト言ヒマスソレモ極夫婦ノ間離レ難イト云フ場合ニ於テ離  
 レテ仕舞ウト云フコトモ出來ヌ、法律上ハ當然ハ附イテイケマセ

又カラドウシテモ附イテ往カウト云フトキハ自分モ矢張り出タイ  
ト云フ斯ウ云フコトヲ請求スルコトヲ許サナケレハイカヌト思フ  
サウテナイト外ノ場合ト納マリカ附カヌ夫婦ト云フ者カ別ノ家ニ  
居ル様ニナル妻カ實家ニ復籍シテ夫ハ養家ニアルト云フ結果カ出  
テ來テ甚ダ不都合テアリマスノテ餘儀ナク本條ヲ置キマシタ又本  
條ノ書キ方ニ付テモ餘程苦シミマシタノテ縁ヲ切ルカ又ハ離婚ヲ  
スルカドチラカテナクテハ納マラヌモノテアリマスカラ餘儀ナク  
甚ダ不吉ナ書キ方テアリマスカ「夫ハ其選擇ニ從ヒ離婚又ハ離婚  
ノ訴ヲ提起スルコトヲ要ス」ト云フヨリ外ニ善イ書キ方ヲ見附ケ  
マセンテ斯ウ書キマシタ文章ハ尙ホ善イ書キ方カアレハ改メルコ  
トハイツテモ改メマス

横田國臣君 私ハ此規則ハ起草者ノイツモ主張サレルコト、筋合ヒ  
カ違ウト思フ何ゼカト云フニ養子カ若シ養女ト結婚シタ場合テナ

クシテ他カラ嫁ヲ取ル其場合ニハ親カ氣ニ入ランカラト言ツテ離  
縁シテサウシテソレヲ逐出スコトカ出來ルト云フノハソレハ私ハ  
少シ無理テハナイカ離婚ヲスルナラハシテモ宜イ離婚シタカラ本  
當ノ嫁ト他ノ者ト同シコトニナルノカ當リ前テアルソレタカラ私  
ハ此箇條ハ却テ要ラナイト思フノテアリマス何ゼカト言ヘハ能ク  
御考ヘテ願ヒタイノハ私カ人ノ養子ニナツテ嫁ヲ貰ウサウシテ離  
縁ニナルト其嫁ハ養女ト云フ名カ附イタ爲メニソレヲ親カ去ルト  
云フメハ變テアル理論上カラ言フタラ脇カラ貰ウタ嫁ニナルカラ  
養親子ト云フ縁ハ絶ヘテ今度ハ親族ト云フモノニナルノカソレカ  
理論上當リ前ト思フソレタカラ養子ノ氣ニ入ツテ居ルノニ其妻ヲ  
去ルト云フコトハ宜クナイ是レハ削ツテ置イテ理論上テ押通ス方  
カ宜シイ

穂積陳重君 ソレハ尤モノヤウテアリマスカサウスルト夫婦養子ノ

場合ニ於テハ其一方ニ前ノ原因カアツテモ離縁スルコトカ出來ヌト云フコトニナラナケレハドウモ納マリカ附カヌト思フ前ニ斯ウ云フ箇條カアル七百三十七條ニ「婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍スレソレカラ婚姻ノ效力ノ所ニ「妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ、夫ハ妻ヲシテ同居ヲナサシムルコトヲ要ス」ト云フコトカアル此二箇條カアルカラ一方ハ離縁カアツテ實家へ復籍シテ居ルサウシテ矢張り妻ト云フ者ハ夫ト同居シテ居ラナケレハナラヌソレカラ親族ノ所ニハ配偶偶者ト云フ者ハ家族ト云フコトニナツテ居ルカラドツチカニナラヌト納マリカ附カヌコトニナル又人情トシマシテモ養家ニ夫婦養子テ居ツタ妻カ離縁ニナツタ其女房ヲひゞい目ニ遇ハスソレテモ尙ホ離縁サレタ家ニ居ラナケレハナラヌト云フコトモ女ノ身ニ取ツテハ困ル話テソレナラハ離縁ト云フコトヲ當然離婚ノ原

因ニスルカト言ヘハソレモ一方カラ考ヘテ見ルト不都合ナ話テソレタカラ女房ノ跡ヲ追掛ケテ出テ往クカ或ハソコニ止マツテ居ルカシナイト前ノ三箇條ノ納マリカ付カヌカラ斯ウシタノテアリマ

ス  
 穂積八束君 今ノ御説明ノ中テ聞漏シタノテアリマスカ此ノ「訴ヲ提起スルコトヲ要ス」トアル何ゼ訴ヲ提起シナケレハナラヌカト云フコトヲ説明ヲ願ヒマス

穂積陳重君 是ハ協議テイケルナラハ規定ハ異ラナイ併シ協議テイカナイ場合ノコトナノテアリマシテ且ツ離縁離婚斯ウ云フ様ナ風ノ重イコトハ一應裁判所ニ出ル方カ工合カ善クハアリマセヌカ協議スルコトヲ要スト云フヤウナコトモ書ケナイノテアリマスソレテ斯ウシタノテ敢テ訴ヲ好ムト云フノテハナイ

長谷川 喬君 此「訴ヲ提起スルコトヲ要ス」ト云フノハ種カテナ

イカラ「離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス」トナツタラドウカソレカラ横田君カラ出タコトモ固ヨリ御尤モノコト、思フ夫婦養子ヲスルトキハ夫婦一致スルニ非サレハ出来ヌカラ夫婦ノ離縁ノ時モ夫婦一致テナクテハイカヌト云フコトニナツタラ理窟カラ言ツテモスラリト通りハシナイカ

穂積陳重君 サウ往ケハ簡單テ宜ウゴザイマスカ如何テゴザイマセウ一方ノ者ハ大變ニ氣ニ入ツテ居ル併シ一方ハ已ムヲ得ス無暗ナコトヲスルトカ慮待チスルトカ或ハ罪ヲ犯スト云フヤウナコトカアツテアレト親子ノ關係ヲ持ツテ居ルノハイヤタト云フコトモアル夫婦養子ノ場合ニ於テ一方カイヤタト云フコトモアル實際上ソレテ宜イコトナラハ簡單テ濟ムカソコハドウテゴザイマセウカ

長谷川 喬君 最初養子シテソレカラ嫁ヲ取ツタナラハ父母ノ權テ割クコトハ出来ルカ併シ夫婦養子ヲシタナラハ父母カ割イテモ宜

イト云フ結果ニハナラヌソレタカラ今仰ツシヤル通り夫婦ノ一方ハ氣ニ入ツテ居ル一方ハ氣ニ入ラヌテ出シタコトモアリマセウカソレハ丁度夫婦雙方一致スルニ非サレハ養子トナルコトハ出来ヌト云フト同シテアラウト思フ男ノ方ハ宜イカ嫁ノ方ハイヤタ嫁ハ善イカ男ハイヤタト云フコトモアラウカ法律上夫婦ニナツテ仕舞ツタ以上ハ親ノ考ヘテ解クコトハ出来ナイソレタカラ是ハ離縁スルナラハ一時ニ離縁スルト云フコトニシテハドウテアラウカ實際多クハ協議離縁ニナルテアラウカラ法律テ要スト極メヌテ得トシテ置イタ方カ善クハナイカ

穂積陳重君 長谷川君ノ御考ヘ道理ニスルト一致スルニ非サレハ離縁ヲ爲スコトヲ得スト云フノテナク一方カ離縁サレレハ兩方共當然離縁ニナルト云フコトテアリマスナ

梅 謙次郎君 若シ一致スルニ非サレハ離縁カ出来ヌト云フト夫婦

養子ヲシタ、所カ細君カ甚タイケナイ奴テ阿父サンニ侮辱ヲ加ヘ  
タ養子ハ細君ヲ愛シテ居ルカ妻ハ阿父サント一緒ニ居ルノハイヤ  
タト言ヘハ其養子ハ家ニ止メテ置キタクモ置クコトハ出來ヌソレ  
ヲ止メテ置クト毎日侮辱ヲ與ヘルコトニナル

長谷川 喬君 ソレカイヤナラ養子トモ出スカ宜イ

重岡薫五郎君 養子ト云フ者カ直チニ推定家督相續人ト爲ルモノテ  
アルカドウカト云フコトノ疑テアリマスカ八百六十四條ニ依テ見  
マスト「養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス」ト  
云フコトカアル之ニ依ルト他ニ實家モナシ何モノナシスレハ養子カ  
直チニ推定家督相續人トナリマスカ若シ推定家督相續人トナルナ  
ラハ七百四十二條ニ依テ「推定家督相續人ハ廢嫡ノ後ニ非サレハ  
他家ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス」ト云フ此規則ニ依ラ  
スシテ離縁ヲスルコトカ出來ルカ或ハ養子ト云フ者ハ直チニ推定

家督相續人ニナラナイモノカト云フ點ニ付テ疑ヒカアリマスガ、  
、、、、、

穂積陳重君 養子ト云フ者カ離縁ニナレハ廢嫡テモ何ンテモナイ子  
テナクナルノテアリマスカラ其結果篤推定家督相續人タル權利ヲ  
失ノウノテアルト思フソレテ別段アノ規則ノ適用ヲ妨ケナイ子テ  
ナクナルカラ其根本カナクナレハ推定家督相續人テナクナルソレ  
ハ書カナクテモ自ラ其結果ニナリハシナイカト思フ

議長（箕作麟祥君） 長谷川君カラ御話カアリマシタ離縁又ハ離婚  
ヲ爲スコトヲ要ステハイケマセヌカ是非訴ヘチシナケレハイケマ  
セヌカドウモ是テハ訴ヲ提起シナケレハナラヌゾト云フヤウニ見  
ヘマスカソコハドウゾ御考ヘテ願ヒタイ

尾崎三良君 夫婦養子ナラ是テモ宜シウゴザイマセウカ小サイ養女ヲ  
貰ツテサウシテ他カラ養子ヲ貰ツタト云フ場合ニ嫁ト云フ者ハ即

チソコノ娘テアルソコテ此跡カラ來タ養子ハ氣ニ入ラヌト言ツテ返シテ仕舞ウトキニ其嫁カソレニ附イテ往クト云フコトハ何カ規定カナケレハナラヌ

穂積陳重君 規定カアル七百四十三條ニ「夫カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨ヒテ其家ニ入ル」トアル

尾崎三良君 サウ云フ場合ニハ養女ト云フ者ハ親子ノ縁ハ切レルノテアリマスカ

穂積陳重君 切レヌ

尾崎三良君 切レル譯テアリマセウ養子ニ娶ハセタ養女カ養子ニ附テ往クト云フコトニナルト養女ト元ノ養父母ハ縁カ切レル譯タ

穂積陳重君 養女カ嫁入りシタト同ナシコトニナル

梅 謙次郎君 但八百七十五條ニ依テ離縁ヲ請求スルコトカ出來ル長谷川 喬君 一寸尾崎君ノ御質問ニ對スル御説明ニ依テ妻ハ之ニ

隨ヒテ夫ノ家ニ入ルノハ當然タト云フコトテアリマスカ前條モサウ云フヤウニ書イタラドウカ家女ハ其父母及ヒ夫ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ夫ノ家ニ入ルコトヲ得ストナツタ方カ宜イ

穂積陳重君 ソレハ尙ホ考ヘテ見マセウ

議長（笑作麟祥君） 本條外ニ御發議カナケレハ原案ニ決シマスソレテハ修正案チャリマス是ハ此前文章丈ケテ起草委員ニ托シタノテアリマスカラ朗讀ハ省略シマス

（左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ掲載ス）

修正案 起草委員提出

第八百六十九條第六號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フルコト

七 養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルコト

八 養子ノ生死カ三年以上分明ナラサルコト

第八百七十條中「第六號」ヲ「第七號」ニ改ムルコト

穂積陳重君 是ハ説明スルコトハアリマセヌ

重岡 薫五郎君 此七ノ方テアリマスカ養子カ逃亡シタトキニハ三年以上ト云フノハ尤モラシイヤウテアリマスカ生死ノ不分明ナルトキニ三年ヲ待タナケレハナラヌト云フ必要ヲ感シナイ或ハ一年位ニシテハドウカ三年迄待タナクテモ宜イヤウニ思ヒマスカドウテアリマセウカ

穂積陳重君 三年ト云フノハ大概ノ見斗ヒカラ見タノテアリマスカ一ツハ離婚ノ所ト見合セテヤツタノテ離婚ノ所ニハ三年トナツタテ居ル

長谷川 喬君 此八百六十九條カ極マラヌテアツタナラハ一寸伺ヒタイノテアリマスカ夫婦養子ノ場合ニ夫婦ノ一方丈ケニ對シテ此所ニ書イテアル如キコトカアツタラソレニ對シテ矢張り宥恕スルコトカ出來ルノテアリマスカ或ハ其人カ宥惹シタラ外ノ人ハイカ

ヌノテアリマスカ

穂積陳重君 當事者ノ一方カ自分ノ配偶者カひどい目ニ遇ツタカラト言ツテ妻又ハ夫カラ離縁ヲ求ムルト云フコトハ本條ノ本文ノ中ニハ遁入ツテ居ナイ積リテアリマス

尾崎三良君 此七ト云フノハ養子カ逃亡シテ三年以上歸ツテ來ナイ場合テアリマスカソコテ三年以上歸ヘラヌトキニ離縁ヲスルトカ云フコトハ無論テアリマセウカ三年經ツテカラ歸ツテ來タ三年ト一日經ツテ歸ツテ來タ三年ト一箇月過キテ歸ツテ來タト云フノテモモウ三年ヲ經過シタカラト言ツテ離縁ノ訴ヲ起スコトハ出來ヌノテアリマスカ

穂積陳重君 八百七十四條ノ期間内ナラハ出來ル「離縁ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年」トナツテ居ル

尾崎三良君 サウスルト三年經ツテ歸ツテ來タカ一年ノ期間内ナラ

ハ離縁カ出來ル生死ノ不分明ナトキモひよこつと歸ツテ來タ三年  
間居ラナカツタカラト言ツテモ矢張り離縁ノ訴カ出來マスカ

穂積陳重君 其事實ヲ知ツテカラ一年內ナラハ出來ルト思フ

尾崎三良君 是ハ斯ウ云フ工合ニシタラドウテス三年經ツテモ其間  
ニ離縁ノ訴ヲ爲サヌ内ニ歸ツテ來タラ其理由ハ消ユルモノトシタ  
ラドウカ生死不分明モ同シテ、、、、

穂積陳重君 ソレテハ生死不分明タケサウシタラドウカ

議長（箕作麟祥君） 三年不分明ト云フ事實ヲ知ツテカラ一年ト云  
フト可笑シクハナリマセヌカ

尾崎三良君 四年イケル

梅 謙次郎君 成程マツイカモ知レヌ

議長（箕作麟祥君） 生死不分明ダケハドウカシナケレハイカヌ

尾崎三良君 ソコテ疑ヒテ起シタカ宥怒スルノハ刑ニ處セラレタ

此度ハ宥怒シテヤルト云フコトハ出來マスカ逃亡シタ奴チ三年經  
ツタ宥怒シマスと言ツテ離カニ向ツテ言ツタ三年間位タカラ宥怒  
シタカ他カラ歸ツテ五年モ六年モ來ナイカ一旦宥怒シタカライカ  
ヌト云フコトニナリハシナイカ宥怒ノ場合テモ工合力悪ルイ知ツ  
テカラ一年ト云フト三年經ツテカラ一年合セテ四年經タナケレハ  
イカヌヤウナ話テアル

梅 謙次郎君 斯ウ云フ風ニナツテハイケマセヌカ實價カソレテ善  
ケレハ文章ハ善ク考ヘマス生死不分明ノ場合ト逃亡ノ場合ト斯ウ  
云フ點ハ同シニシタイ今尾崎サンノ仰ツシヤツタ如ク三年チ經過  
シタ後テモ歸ツタナラハ最早ソレチ離縁スルコトハ出來ヌ若シソ  
レチ離縁シヤウト言ヘハ歸ツテ來ナイ内ニセヨ生死不分明モ亦然  
リ生キテ居ルト云フコトカ知レテカラハ訴チ起セヌト云フコトニシ  
タラドウカサウシテ宥怒ト云フモノハ父母ノ場合ハ逃亡シテカラ後



ニ宥恕スレハソレニ依テ離縁ノ訴ヲ提起スルコトカ出來ルトシテハ  
ドウカソレハ宥恕スルニハ尾崎サンノ仰ツシヤルヤウニアレハ惡  
ルイコトチシタカ宥恕シヤウト思ヒマスト云フノテハイカ又例へ  
ハ手紙チヤツテ往ク先キカ知レテ居ツテ返事迄貰フテ不都合ナ事  
チシタカ既往ハ咎メスタカラ遠クニ往ツタラ仕方カナイ早ク歸ツ  
テ來イト云フナラハ宥恕チ得タカラ逃亡テナイ初メ許可チ得テ遠  
クへ往ツテ幾ラ歸レト言ツテモ歸ヘラヌト云フノト同シテアル  
榎積陳重君 逃亡ノ方ノ宥恕ハ是ハ歸ツテ來テ後ニ宥恕シテモ逃亡  
チ理由トシテ訴ヘルコトハ出來ヌ併シ三年モ逃亡シテ歸ツテ來ナ  
イト云フノハひさい過チテアリマスカラ私ハ分レルナラハ八丈ケ  
チ分ケタイ考ヘテアル逃亡中ニ宥恕シテモ宜シイ

長谷川 喬君 私ハ先刻御尋ネシタコトテモウ少シ御尋ネシタイ養  
父母トソレカラ養子養女トアル場合ソレカラ養子養女ハ既ニ婚姻

シタモノテアル其時ニ養男即チ夫カ不都合ノアツタ場合ニハ夫丈  
ケチ離縁スルサウスルト妻ハ夫ニ從テ離縁スルカ或ハクツ付イテ  
往ク兎ニ角養子女チ離縁スル始末ハ八百八十條テ附テ居ル私ノ考  
ヘテハ養親ノ場合或ハ養父カ養子ニ對シテ此八百六十九條ニ書イ  
テアルヤウナ虐待チスル養父カ養女ニ對シテ虐待チスルト云フヤ  
ウナコトカアツタラ養女ハ養父チ相手取ツテ離縁ノ訴ヲ提起スル  
コトカ出來ルカ併シ養母ト養子トノ縁組カ殘ルサウスルト夫婦カ  
一人ノ者カ一人ノ者ニ對シテ養子テ片々ハ此方ノ養子ニナツテ居  
ルヤウナコトハ出來マセヌカ私ノ言フ様ニ一人チ離縁スレハ二人  
チ離縁スルト云フヤウニナレハ宜イカ養親子ノ内ニ養父ノ養子ト  
云フ者ト養母ノ養子ト云フ者カアツテ不都合テハアリマセヌカ  
榎積陳重君 當事者ノ一方ハ他ノ一方ニ對シテ請求カ出來ル養親ノ  
方ニ付テハサウ云フ不都合ハナイ序ニ前ノ極マリチ附ケナケレハ

イケマセヌカ尾崎サン御發議ニナツタラドウカ兩方共歸ツテ來タ  
ラ出來ヌト云フコトニスルカ或ハ生死不分明ノトキ丈ケニスルカ  
訴ノ所ニ少シ附ケ加ヘレハ納マリカ附キハシナイカ即チ第七號第  
八號ノトキハ訴ヲ提起スルコトヲ得スト云フコトニナル定メテ離  
婚ノ生死不分明ノ所モ同一ノコトカ出テ來ヤウト思フ  
尾崎三良君 私ハ逃亡ノ方ハ復歸シテカラ一年内ハイケルト云フコ  
トニシテ置イタ方カ宜カラウソレカラ生死不分明ノトキハイカヌ  
ト云フ方ニシタカ善クハナイカ

穂積陳重君 私ハ尾崎君ニ贊成シテ置キマス

議長（笑作麟祥君） サウスルト尾崎サンノ御説ハ七ノ方ノ逃亡ノ  
場合ハ復歸シタ後テモ一年ノ内ハ離縁カ出來ル八ノ方ハ歸ツテ來  
テ生キテ居ルコトカ分ツタ以上ハ離縁ノ訴カ出來ヌト云フ區別ヲ  
シヤウト云フノテアリマス只今ノ尾崎君ノ説ニ贊成ノ方ハ起立ヲ

請ヒマス

起立者 多數

議長（笑作麟祥君） 多數テアリマスソレテハ文章ハ起草委員ニ整  
理迄ニ願ヒマス今日ハ議案カ是テ盡キマシタカラ散會シマス

午後六時二十分散會





11